松山市文化財調査報告書 98

北久米遺跡

－３次調査地－

2004

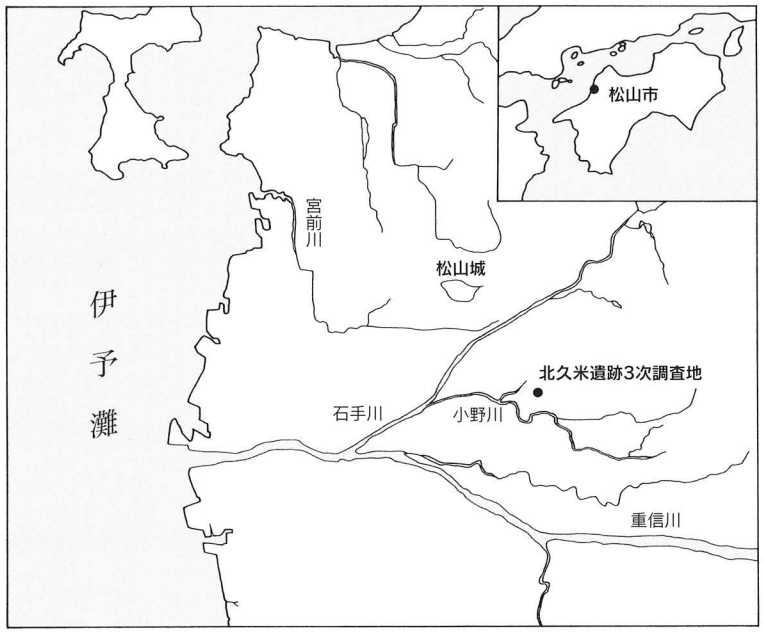
松山市教育委員会

財団法人　松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

北久米遺跡

3次調査地



2004

松山市教育委員会

財団法人　松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

序

本報告書は平成15年度に北久米町において開発工事に伴う事前発掘調査の成果をまとめたものです。

北久米遺跡３次調査地が位置する松山平野の南東部には、弥生時代から古代にかけての遺跡が数多く分布しています。当遺跡の周辺においては、国道11号バイパス建設に伴う発掘調査により、弥生時代から古墳時代の集落の存在がみつかりました。また、北西方には古墳時代を中心とした大規模な集落遺跡である福音小学校構内遺跡、南東方には古墳時代から古代にかけての集落遺跡である北久米浄蓮寺遺跡などがあり、当地域における遺跡の全容が明らかになりつつあります。

今回実施された調査では、古墳時代から中世の土坑や溝などの集落関連遺構や、土師器や須恵器、石器などの遺物を確認し、記録にとめることができました。

このような貴重な成果が得られましたのも、関係各位の方々の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のたまものであり、心から感謝申し上げる次第です。

なお、本書が埋蔵文化財の調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、教育文化の向上に寄与できることを願っております。

平成16年３月31日

財団法人　松山市生涯学習振興財団
理事長　中　村　時　広

例　言

1．本書は、松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成15年度に愛媛県農業協同組合連合会から委託を受けて、松山市北久米町754-1、755-1、756-1の各一部で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．遺物の実測・製図および遺構の製図は、担当調査員の指導のもと、山邊進也、猪野美喜子、金子育代、高尾久子、大西陽子、西本三枝、平岡直美、山下満佐子が行った。

3．遺構は呼称を略号で記述した。溝：ＳＤ、土坑：ＳＫ、柱穴：ＳＰ、性格不明遺構：ＳＸとした。

4．遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。

5．本書に使用した方位はすべて真北である。

6．本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。

7．本書の執筆は、河野史知が執筆し、梅木謙一の協力を得た。

8．遺物の撮影及び写真図版作成は大西朋子が行った。

9．編集は河野史知が行った。

10．製版　写真図版175線
　　印刷　オフセット印刷
　　用紙　本　　文　　マットカラー　110kg
　　写真図版　　マットカラー　135kg
　　製本　アジロ綴じ

本 文 目 次

第1章　はじめに
1．調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2．調査・刊行組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章　遺跡の概要
1．遺跡の立地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2．歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第3章　調査の概要
1．調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2．層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3．遺構と遺物
（1）1区の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（2）2区の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（3）3区の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（4）4区の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
（5）5区の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

第4章　調査のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

挿　図　目　次

第１図　松山平野の地形分類図　(S=1:200,000)　・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第２図　調査地周辺の遺跡分布図（1）　(S=1:50,000)　・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第３図　調査地周辺の遺跡分布図（2）　(S=1:3,000)　・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第４図　調査地区割図　(S=1:700)　・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第５図　１区東壁・２区南壁土層図　（S＝1：50）　・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第６図　３区東壁・西壁土層図　（S＝1：50）　・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第７図　４区東壁・５区西壁土層図　（S＝1：50）　・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第８図　遺構配置図　（S＝1：150）　・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第９図　ＳＰ１測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第10図　第Ⅳ層出土遺物実測図　（S＝1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第11図　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第12図　ＳＫ３測量図・出土遺物実測図　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第13図　ＳＫ５測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第14図　ＳＫ６測量図・出土遺物実測図　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第15図　ＳＫ８測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第16図　ＳＫ９測量図・出土遺物実測図　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第17図　ＳＫ12測量図・出土遺物実測図(1)　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第18図　ＳＫ12出土遺物実測図(2)　（S＝1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第19図　ＳＤ１測量図・出土遺物実測図　（S＝1：80・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第20図　ＳＤ２測量図・出土遺物実測図　（S＝1：80・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第21図　ＳＤ４測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第22図　ＳＫ10測量図・出土遺物実測図　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第23図　ＳＫ１測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第24図　ＳＫ１出土遺物実測図　（S＝1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第25図　ＳＫ４測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第26図　ＳＫ７測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第27図　ＳＫ11測量図・出土遺物実測図(1)　（S＝1：40・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第28図　ＳＫ11出土遺物実測図(2)　（S＝1：３・１：２）　・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第29図　ＳＫ13測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第30図　ＳＫ13出土遺物実測図　（S＝1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第31図　ＳＫ14測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第32図　ＳＫ15測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第33図　ＳＤ３測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第34図　ＳＸ１測量図　（S＝1：40）　・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第35図　ＳＸ１出土遺物実測図　（S＝1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第36図　ＳＸ２測量図・出土遺物実測図　（S＝1：80・1：３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・32

第37図　ＳＸ３測量図・出土遺物実測図　（S=1：40・1：3）・・・・・・・・・・・・・33
第38図　柱穴出土遺物実測図　（S=1：3・1：4）・・・・・・・・・・・・・34
第39図　第Ⅳ層出土遺物実測図　（S=1：3・1：4）・・・・・・・・・・・・・35
第40図　ＳＤ５測量図・出土遺物実測図　（S=1：40・1：3）・・・・・・・・・・・・・36
第41図　ＳＤ６測量図　（S=1：40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第42図　ＳＰ５出土遺物実測図　（S=1：1）・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第43図　ＳＤ７測量図・出土遺物実測図(1)　（S=1：40・1：3）・・・・・・・・・・・・・37
第44図　ＳＤ７出土遺物実測図(2)　（S=1：3・1：2）・・・・・・・・・・・・・38
第45図　ＳＤ８測量図・出土遺物実測図　（S=1：40・1：3・1：2）・・・・・・・・・38

表　目　次

表１　溝一覧・・40
表２　土坑一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
表３　性格不明遺構一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
表４　２区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
表５　３区ＳＫ２出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
表６　３区ＳＫ３出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
表７　３区ＳＫ６出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
表８　３区ＳＫ９出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
表９　３区ＳＫ12出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
表10　３区ＳＤ１出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
表11　３区ＳＤ２出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
表12　３区ＳＫ10出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
表13　３区ＳＫ１出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
表14　３区ＳＫ11出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
表15　３区ＳＫ11出土遺物観察表（鉄製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
表16　３区ＳＫ13出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
表17　３区ＳＸ１出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
表18　３区ＳＸ２出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
表19　３区ＳＸ３出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
表20　３区柱穴出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
表21　３区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
表22　４区ＳＤ５出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
表23　４区ＳＰ５出土遺物観察表（石製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
表24　５区ＳＤ７出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
表25　５区ＳＤ７出土遺物観察表（鉄製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
表26　５区ＳＤ８出土遺物観察表（土製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
表27　５区ＳＤ８出土遺物観察表（鉄製品）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

写真図版目次

図版１．１ 調査前風景（南東より）
２ 調査地全景（西より）
図版２．１ １区検出状況（東より）
２ １区完掘状況（南より）
図版３．１ ２区検出状況（北より）
２ ２区完掘状況（北より）
図版４．１ ３区表土掘削状況（北東より）
２ ３区調査風景（南東より）
図版５．１ ３区西壁土層（東より）
２ ３区遺構検出状況（南より）
図版６．１ ３区ＳＫ13ベルト土層・遺物出土状況（南より）
２ ３区ＳＤ１・ＳＸ２ベルト土層（西より）
図版７．１ ３区ＳＤ１遺物出土状況（北より）
２ ３区ＳＤ１南西端ベルト土層（北東より）
図版８．１ ３区遺構完掘状況（北西より）
図版９．１ ４区遺構検出状況（南より）
２ ４区遺構完掘状況（北より）
図版10．１ ５区遺構検出状況（北東より）
２ ５区ＳＤ７遺物出土状況（北より）
図版11．１ ５区遺構完掘状況（北より）
図版12．１ ３区：ＳＫ３(7)、ＳＫ９(12)、ＳＫ12(15・16)、ＳＤ１(21)、ＳＫ10(30)、ＳＫ１(32)出土遺物
図版13．１ ３区：ＳＫ11(40・41)、ＳＸ1(51・53)、ＳＸ2(54)、柱穴(64)出土遺物
図版14．１ ３区：柱穴(66)、第Ⅳ層(83)出土遺物
２ ４区：ＳＰ５出土遺物
３ ５区：ＳＤ７(91・94・96)、ＳＤ８(98)出土遺物

第１章　はじめに

１．調査に至る経緯

2003（平成15）年７月28日、愛媛県農業協同組合連合会より、松山市北久米町754－1・755－1・756－1における給油所及び店舗建設にあたり、当該地の埋蔵文化財確認願いが松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。

当該地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.124 北久米遺物包含地」内に所在し、これまでに周辺では、数多くの発掘調査が実施されており、周知の遺跡地帯として知られている。北西には弥生時代から古墳時代の集落関連遺構を主体とした筋違遺跡や古墳時代を中心とする大集落跡の福音小学校構内遺跡、南東には古墳時代から古代までの集落跡を検出した北久米浄蓮寺遺跡などがあり、当該地周辺は弥生時代から古代にかけての集落地帯であったことが明らかとなっている。

これらのことから、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲や性格を確認するため、2003（平成15）年８月20日から21日にかけて文化財課は試掘調査を実施した。その結果、地表下100～120cmから弥生土器・土師器・須恵器片を包含する弥生時代から中世にかけての遺物包含層を検出し、遺物包含層の下層から土坑状遺構や柱穴を確認した。

これらの結果を受け、当該地における遺跡の取り扱いについて文化財課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）と申請者は協議を重ね、開発工事によって失われる遺跡に対し、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、調査地及び周辺地域における古墳時代から中世までの集落の広がりや集落構造解明を主目的とし、埋文センターが主体となり、申請者の協力のもと2003（平成15）年11月４日に開始した。

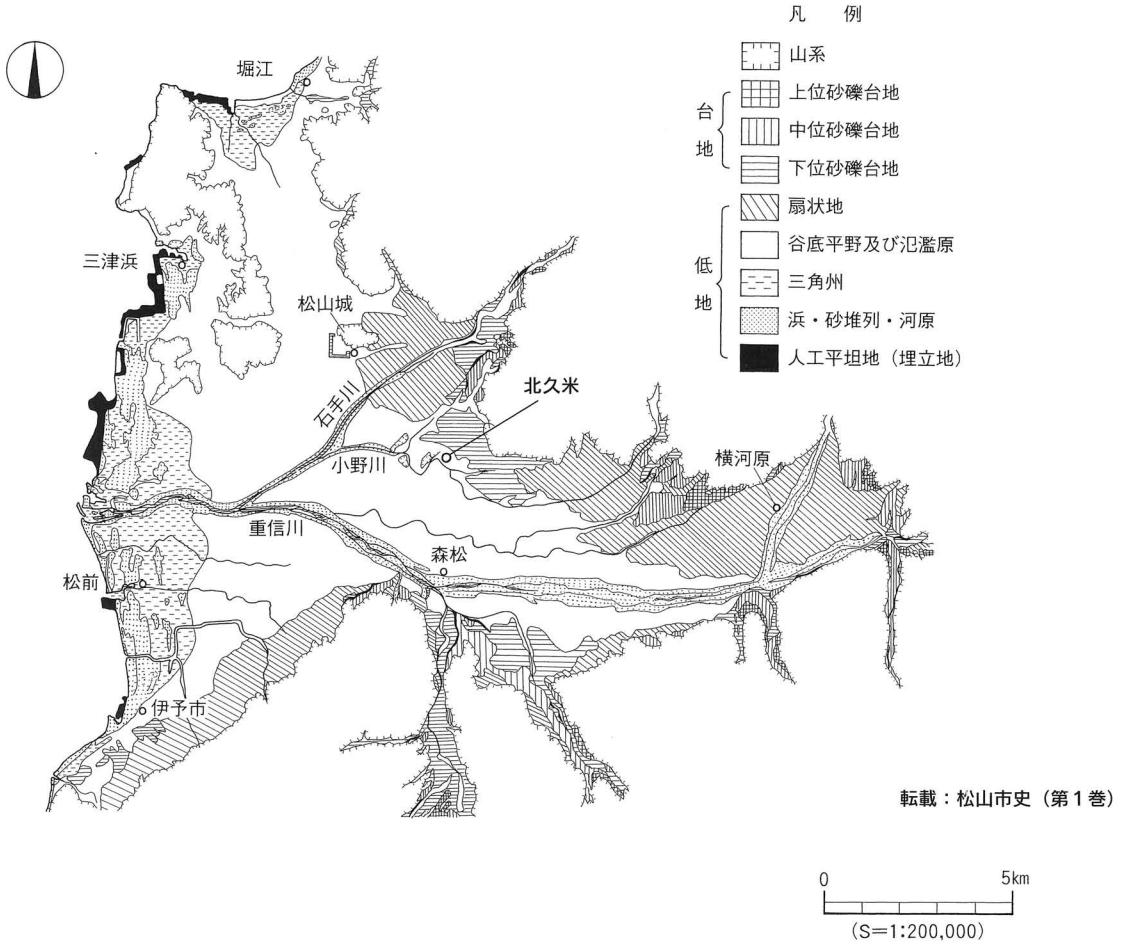
２．調査・刊行組織（平成16年３月31日現在）

松山市教育委員会		教育長	中矢陽三
	事務局	局長	武井正浩
		企画官	遠藤宗敏
		企画官	石丸　修
	文化財課	課長	八木方人
		主幹	家久則雄
		副主幹	田城武志
		副主幹	重松佳久
財団法人松山市生涯学習振興財団		理事長	中村時広
		事務局長	三宅泰生
		事務局次長	菅　嘉見
	埋蔵文化財センター	所長	杉田久憲
		専門監兼学芸係長	高本昌陽
		次長兼調査係長	西尾幸則
		副主幹兼管理係長	岸本照修
		調査員	河野史知

第２章　遺跡の概要

１．遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、伊予灘と斎灘に面し、南東部には石鎚山系、北部には高縄山系が聳える。平野は、高縄山に源を発した河川により形成された沖積平野である。この平野南東部において西流する小野川、その下流に分離独立丘陵「東山」がある。小野川を挟んだ東側対岸に星岡丘陵、南側対岸には天山丘陵が所在し、この３つの丘陵を俗に「伊予三山」と呼んでいる。この丘陵群に至る微高地の南西端に当遺跡は立地している。弥生時代より居住地及び耕作地として栄えてきたところである。東には古代の遺跡として知られる来住・久米の遺跡群がある。



転載：松山市史（第１巻）

第１図　松山平野の地形分類図

2．歴史的環境（第2図）

当遺跡周辺には、数多くの遺跡が立地している。以下、これらの遺跡について時代別に記述する。

旧石器時代

東山鳶が森古墳の調査よりサヌカイト製のナイフ形石器１点、天山天王が森遺跡より瑠璃質安山岩製のナイフ形石器１点、釜ノ口遺跡よりチャート製のナイフ形石器１点と尖頭器１点が出土している。いずれも遺構にともなったものでない。

縄文時代

縄文時代は、この地域では後・晩期に限られ、来住台地上に立地する久米窪田森元遺跡の土壙より縄文後期の土器片が多数出土しており、数少ないこの時期の一括資料として貴重なものである。

晩期の資料には、南久米片廻り遺跡２次調査地から出土した土器群があげられる。朱塗りの壺と刻目凸帯を有する深鉢が出土している。

弥生時代

来住台地及びその周辺地域では、集落として弥生時代の人々の痕跡を認めることができる。久米窪田Ⅲ遺跡では、中期の竪穴式住居址や土壙墓などが検出されている。また、来住廃寺15次調査より良好な一括資料が出土している。後期では福音小学校構内遺跡から、壺棺、溝、区画溝、土器溜りが検出されており、集落の様相が明らかとなってきている。

古墳時代

星岡、東山をはじめとする独立丘陵には、６世紀から７世紀中葉にいたる円墳を中心とする小規模な古墳が多数分布する群集墳地帯である。集落跡は福音寺地区から北久米浄蓮寺地区全体の広域に認められる。福音小学校構内遺跡では竪穴式住居址と掘立柱建物址が100棟あまり検出されている。北久米浄蓮寺遺跡３次調査においては初期須恵器の甕が出土したのをはじめとして、５世紀前半から７世紀中葉にいたる竪穴式住居址や掘立柱建物、区画溝が検出されている。また、両遺跡の南に隣接する国道11号線の建設に先だって行われた調査においては、福音寺遺跡筋違地区、星岡遺跡北下地区をはじめとして、古墳時代の遺構・遺物が多く出土している。

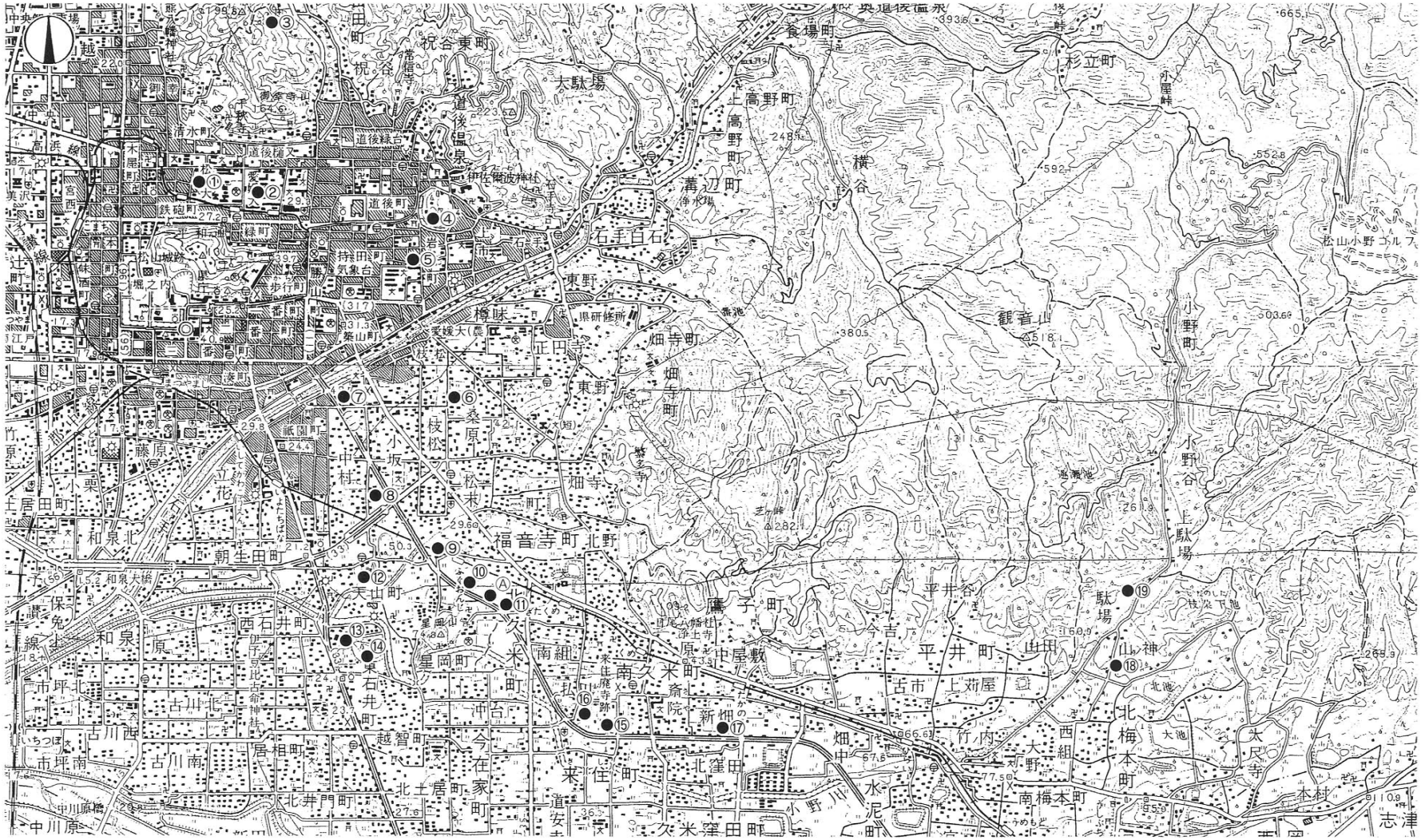
古代

国指定史跡として知られる来住廃寺をはじめとして、官衙関連遺構を多数検出している久米高畑遺跡があり、久米高畑遺跡は調査事例が50次を越え、寺院・官衙施設の構造も次第に解明されつつある。

北久米浄蓮寺遺跡3次調査では、土坑や区画性をもつ溝が検出されている。

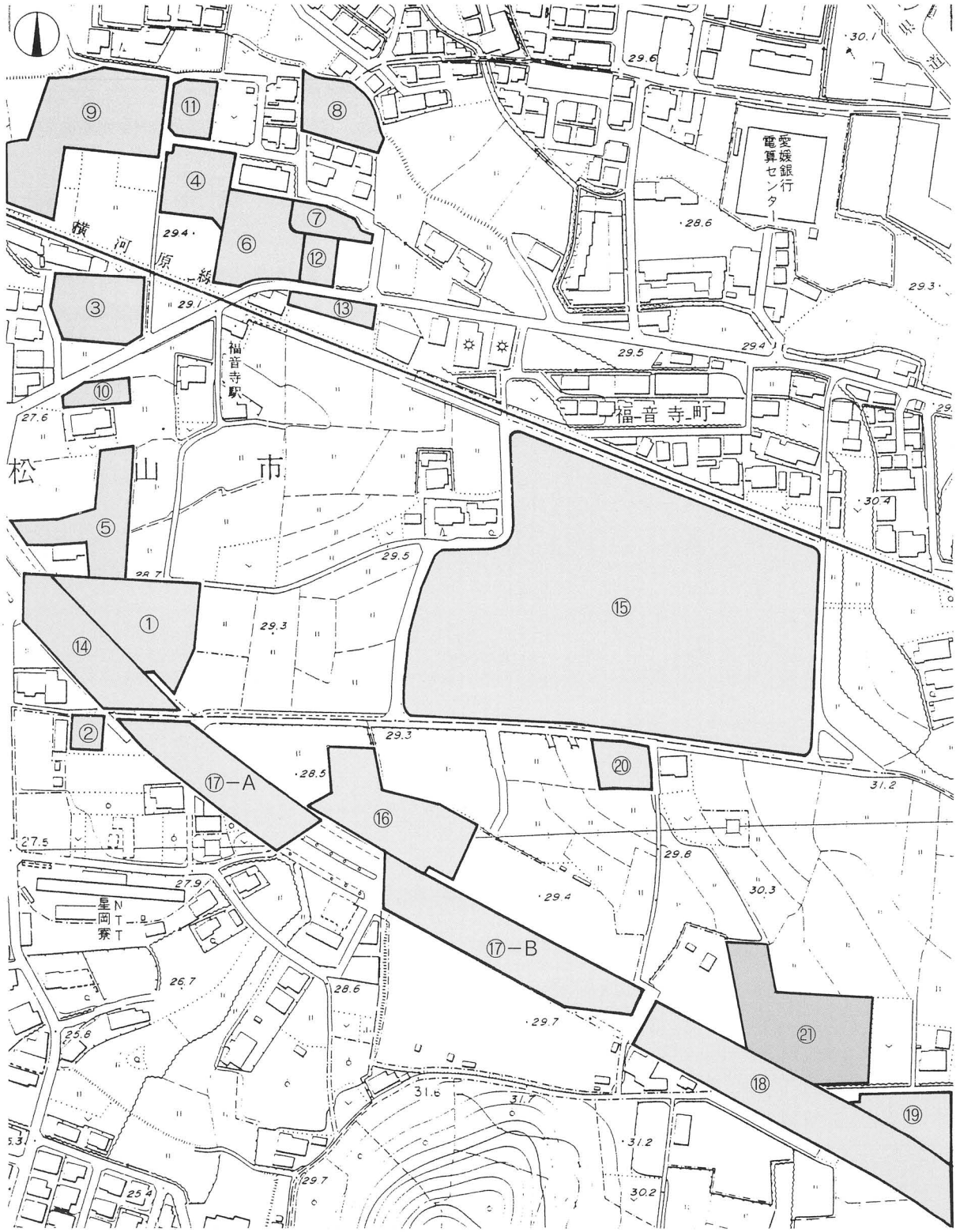
中～近世

来住廃寺15次調査において確認された土壙墓には17世紀前半の肥前系陶器が副葬されていた。天山と星岡等の独立丘陵は南北朝の昔、南朝が北朝を迎え戦った古戦場跡である。



Ⓐ北久米遺跡3次調査地　①松山大学構内遺跡　②文京遺跡　③祝谷六丁場遺跡　④湯築城址　⑤岩崎遺跡　⑥枝松遺跡4次調査地・東本遺跡4次調査地
⑦中村松田遺跡　⑧釜ノ口遺跡　⑨筋違遺跡　⑩福音小学校構内遺跡　⑪北久米浄蓮寺遺跡　⑫天山神社北古墳　⑬東山鳶が森古墳群　⑭東山古墳群
⑮来住廃寺跡　⑯久米高畑遺跡・久米官衙遺跡群　⑰久米窪田森元遺跡　⑱葉佐池古墳　⑲駄場姥ケ懐窯址　（S＝1：50,000）

第２図　調査地周辺の遺跡分布図(1)



①筋違Ｃ遺跡　②筋違Ｄ遺跡　③筋違Ｅ遺跡　④筋違Ｆ遺跡　⑤筋違Ｇ遺跡　⑥筋違Ｈ遺跡　⑦筋違Ｉ遺跡　⑧筋違Ｋ遺跡　⑨筋違Ｌ遺跡　⑩筋違Ｍ遺跡　⑪筋違Ｎ遺跡　⑫筋違Ｏ遺跡　⑬筋違Ｐ遺跡　⑭福音寺遺跡（筋違Ａ・Ｂ区）　⑮福音小学校構内遺跡　⑯乃万の裏遺跡2次調査地　⑰星ノ岡遺跡（⑰－Ａ：旗立地区、⑰－Ｂ：北下地区）　⑱北久米遺跡（常堰地区）　⑲北久米常堰遺跡　⑳北久米遺跡2次調査地　㉑北久米遺跡3次調査地　（Ｓ＝1：3,000）

第３図　調査地周辺の遺跡分布図(2)

【文献】

宮崎泰好　1989「北久米常堰遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会

梅木謙一編　1992『来住・久米地区の遺跡』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本雄一編　1994『北久米浄蓮寺遺跡－3次調査地－』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一・武正良浩　1995『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一編　1996『福音寺地区の遺跡』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

河野史知編　1998『福音寺地区の遺跡Ⅱ』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

山之内志郎編　2001『福音寺地区の遺跡Ⅲ』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

武正良浩　2003『福音小学校構内遺跡Ⅱ』松山市教育委員会、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

第３章　調査の概要

１．調査の経過

北久米遺跡３次調査地の調査地、調査面積等は以下の通りである。

調 査 地　　松山市北久米町754-1、755-1、756-1の各一部

調査期間　　2003（平成15）年11月４日～同年12月25日

調査面積　　2,806㎡のうち443.83㎡

調査委託　　愛媛県農業協同組合連合会

発掘調査は平成15年11月４日から開始した。

平成15年11月４日、人員を配して１・２区の壁・床面の精査を開始する。11月５日、１・２区の遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ、測量を開始する。11月７日、２区の遺構完掘状況の写真撮影を行い２区の調査を終了する。11月12日、１区の遺構完掘状況の写真撮影を行い１区の調査を終了する。11月13日、３区の壁・床面の精査を開始する。11月18日、３区の遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ・測量を開始する。12月19日、３区の遺構の掘り下げ測量を終了する。12月22日、重機にて４・５区を掘削する。壁・床面の精査を行い、遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ・測量を開始する。12月24日、４・５区の遺構の堀り下げ・測量を終了する。12月25日、１・３・４・５区の全体清掃を行い、遺構完掘状況の写真撮影を行う。発掘機材を撤去し、本日にて野外調査を終了する。

第４図　調査地区割図

2．層　位（第5～7図）

調査地は松山平野南東部、微高地上の標高約31ｍに立地し、調査以前は造成地であった。基本層序は、第Ⅰ層灰色砂質土、第Ⅱ層褐灰色土～暗灰黄色土、第Ⅲ層褐灰色土～明褐色土、第Ⅳ層灰褐色土～黒色土、第Ⅴ層黄色土である。なお、旧地形は北東より南西に緩傾斜している。

第Ⅰ層　現代の造成土で、厚さ41～118cmの堆積を測る。

第Ⅱ層－a　旧耕作土で、厚さ２～29cmを測る。

b　旧耕作土下の床土で、ほぼ全域に厚さ１～９cmの堆積を測る。

第Ⅲ層－a　旧々耕作土で、厚さ４～16cmの堆積を測る。

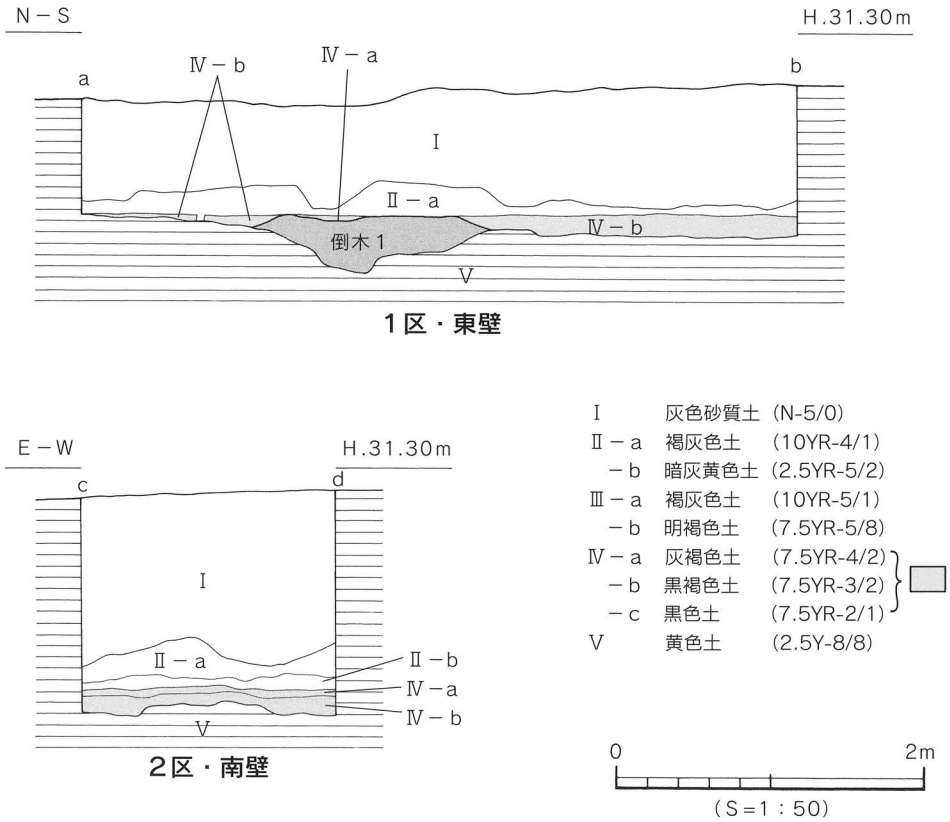
b　旧々耕作土下の床土で、厚さ１～７cmの堆積を測る。

第Ⅳ層－a　３区全域に堆積し、中世の遺物を包含する。厚さ２～55cmを測る。

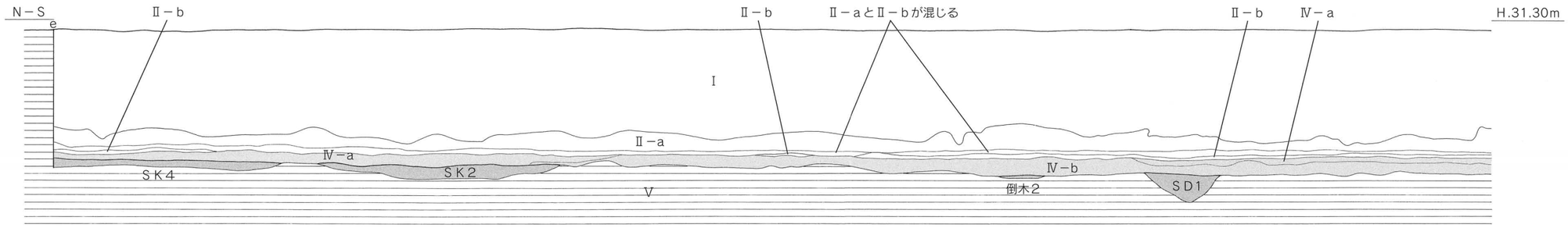
b　３区北側を除くほぼ全域に堆積し、古墳時代の土師器・須恵器を包含する。厚さ２～48cmの堆積を測る。

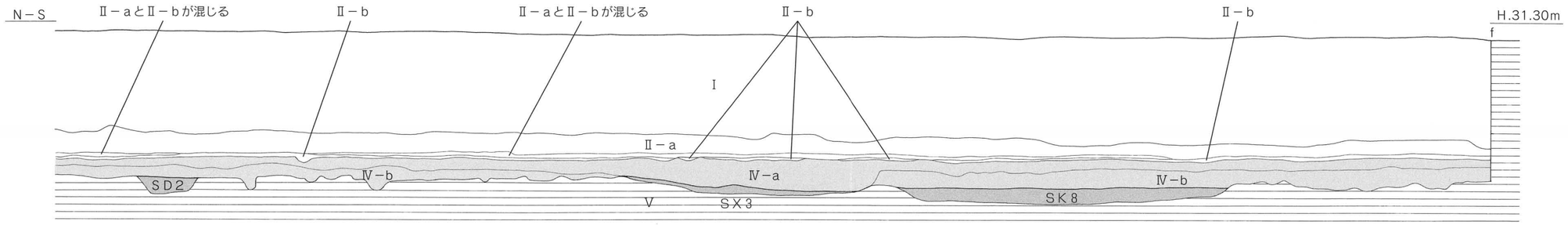
c　４区の北側のみに堆積し、弥生土器を包含する。厚さ４～34cmを測る。

第Ⅴ層　地山であり、この層の上面において遺構を検出した。

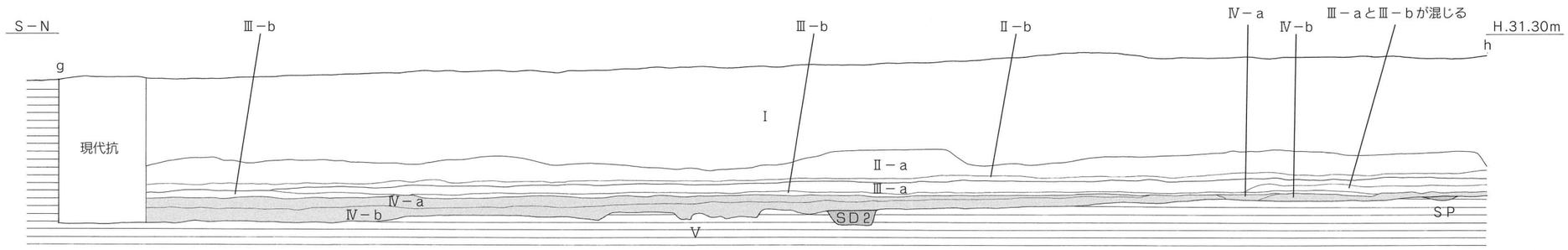


第５図　１区東壁・２区南壁土層図





東壁

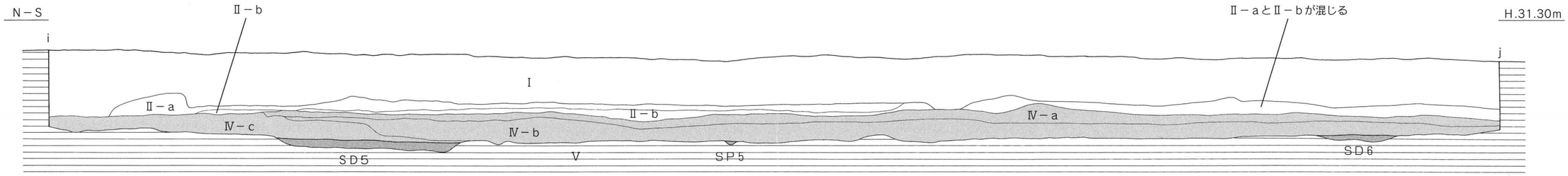


西壁

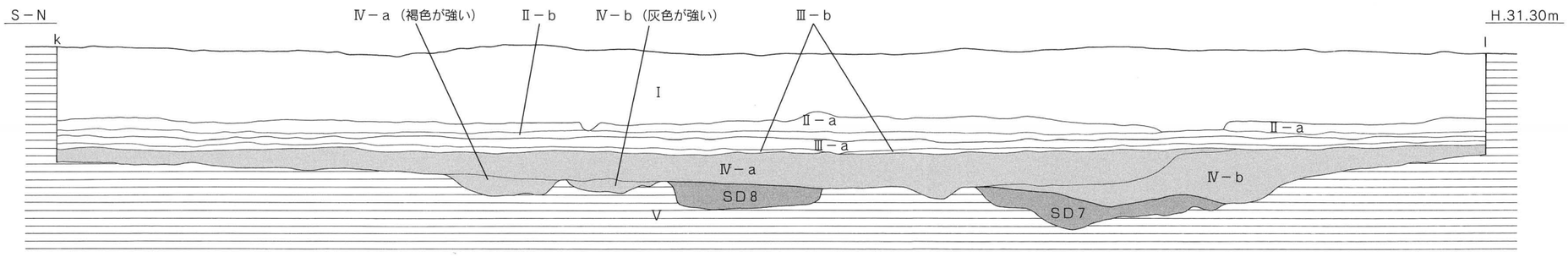
Ⅰ	灰色砂質土	(N-5/0)
Ⅱ－a	褐灰色土	(10YR-4/1)
－b	暗灰黄色土	(2.5YR-5/2)
Ⅲ－a	褐灰色土	(10YR-5/1)
－b	明褐色土	(7.5YR-5/8)
Ⅳ－a	灰褐色土	(7.5YR-4/2)
－b	黒褐色土	(7.5YR-3/2)
－c	黒色土	(7.5YR-2/1)
Ⅴ	黄色土	(2.5Y-8/8)

0　2m
(S=1：50)

第6図　3区東壁・西壁土層図



4区東壁



5区西壁

Ⅰ	灰色砂質土	(N-5/0)
Ⅱ－a	褐灰色土	(10YR-4/1)
－b	暗灰黄色土	(2.5YR-5/2)
Ⅲ－a	褐灰色土	(10YR-5/1)
－b	明褐色土	(7.5YR-5/8)
Ⅳ－a	灰褐色土	(7.5YR-4/2)
－b	黒褐色土	(7.5YR-3/2)
－c	黒色土	(7.5YR-2/1)
Ⅴ	黄色土	(2.5Y-8/8)

0　2m
(S=1：50)

第7図　4区東壁・5区西壁土層図

第7図　4区東壁・5区西壁土層図

３．遺構と遺物

本調査では、古墳時代・中世の遺構や遺物を検出した。遺構には、土坑15基、溝８条、柱穴69基、倒木痕２基、性格不明遺構３基がある。遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・石器が出土した。

〔１〕１区の調査

第Ⅴ層上面にて柱穴12基、倒木痕１基を検出した。

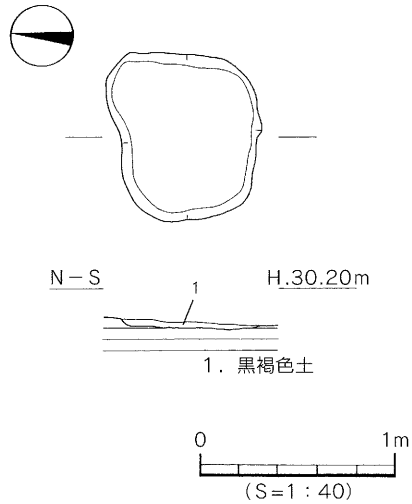
（１）古墳時代

１）柱穴

ＳＰ１（第９図）

調査区北東部のＡ・８区に位置する。平面形態は不整楕円形で断面形態は皿状を呈する。規模は東西0.89ｍ、南北0.72ｍ、深さ６cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。



第９図　ＳＰ１測量図

（２）時代不詳

１）倒木痕

倒木１

調査区東側のＡ・８区に位置し、東側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は不整楕円形を呈するものと推測する。断面形態は深鉢状を呈する。埋土は外側が暗褐色土～黒褐色土、内側が黒色粘質土となる。遺物の出土はない。

〔２〕２区の調査

第Ⅴ層上面にて柱穴1基と浅い掘り込み１基検出した。

（１）古墳時代

１）柱穴

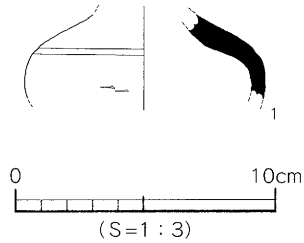
ＳＰ２

調査区西側のＡ・１区に位置し、南西部は調査区外に延びる。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は東西0.38ｍ、南北0.47ｍ、深さ８cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。

第Ⅳ層出土遺物（第10図）

１は甕の胴部である。上胴部に凹線が１条巡る。



第10図　第Ⅳ層出土遺物実測図

〔3〕３区の調査

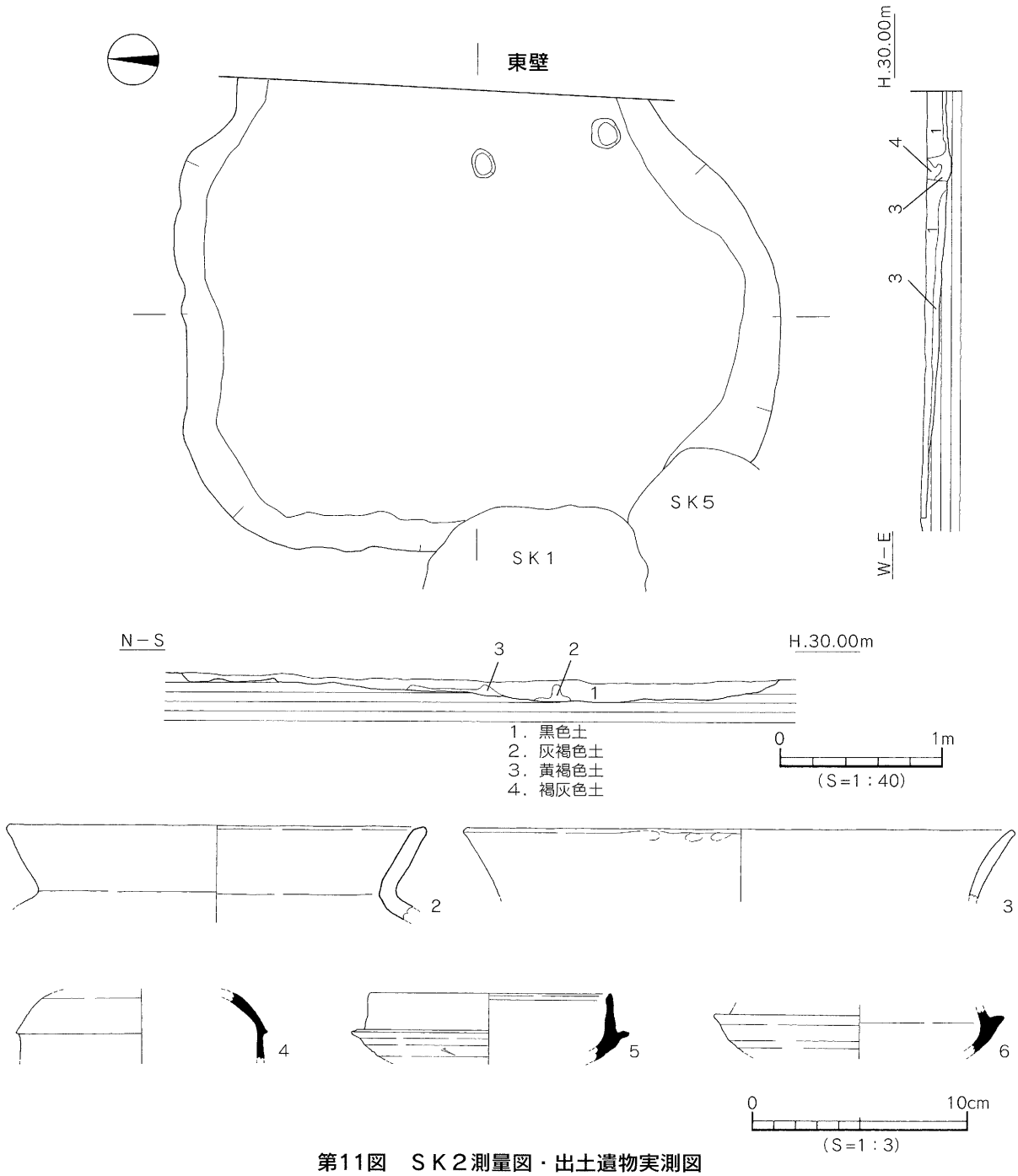
第Ⅴ層上面にて土坑15基、溝４条、柱穴53基、倒木痕１基、性格不明遺構３基を検出した。

（1）古墳時代

1）土坑

ＳＫ２（第11図）

調査区北側のＡ～Ｂ・５～６区に位置し、ＳＫ１・５に切られる。東側が調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は不整楕円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西2.9m以上、南北3.68m、深さ13cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土師器・須恵器片が出土する。



第11図　ＳＫ２測量図・出土遺物実測図

出土遺物（第11図）

２・３は甕の口縁部である。２は「く」字状の口縁部。３は外反する口縁部に端面は平らな面をなす。４は坏蓋である。丸みをもつ天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は垂下する。５・６は坏身である。５は受部に凹みをもち、口縁端部に段を有する。６は受部がやや凹み、立ち上がりは内傾する。

時期：出土した遺物の特徴から６世紀初頭とする。

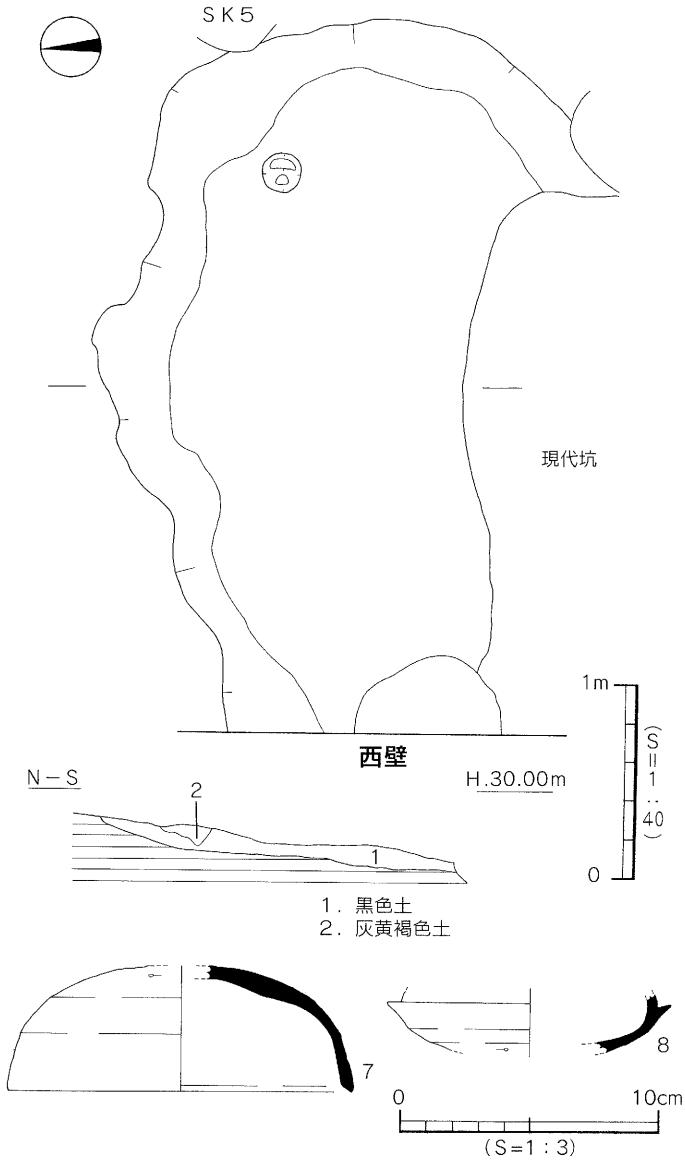
ＳＫ３（第12図）

調査区北側のＢ・４～５区に位置する。ＳＸ２を切り、ＳＫ５・現代坑に切られ、全容は不明であるが、平面形態は楕円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西3.72ｍ以上、南北1.92ｍ以上、深さ12cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土師器・須恵器片が僅かに出土する。

出土遺物（第12図、図版12）

７は坏蓋である。天井部と口縁部の境に緩やかな稜をなす。８は坏身である。外上方にのびる受部に、内傾する立ち上がりをもつ。

時期：出土した遺物の特徴から６世紀中頃とする。

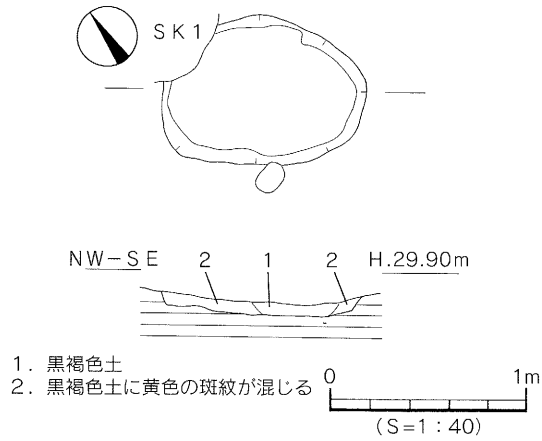


第12図　ＳＫ３測量図・出土遺物実測図

ＳＫ５（第13図）

調査区北側のＢ・５区に位置し、ＳＫ２・３を切り、ＳＫ１に切られる。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.05ｍ、南北0.79ｍ、深さ７cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、古墳時代としか判らない。



第13図　ＳＫ５測量図

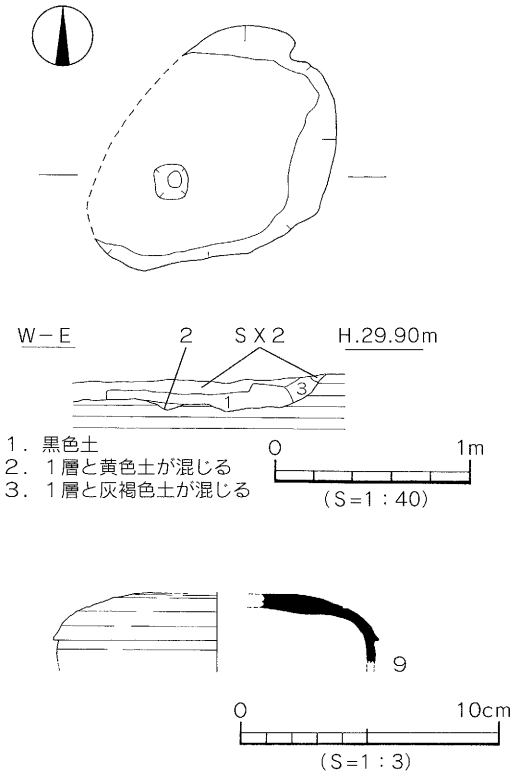
ＳＫ６（第14図）

調査区北側のＢ～Ｃ・５～６区に位置し、西側をＳＸ２に切られたため全容は不明であるが、平面形態は楕円形を呈するものと推測する。断面形態はレンズ状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.05ｍ以上、南北1.45ｍ、深さ16cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は須恵器片が僅かに出土する。

出土遺物（第14図）

９は坏蓋である。平らな天井部は、口縁部との境に稜をもち、口縁部は垂下する。

時期：出土した遺物の特徴から６世紀前半とする。

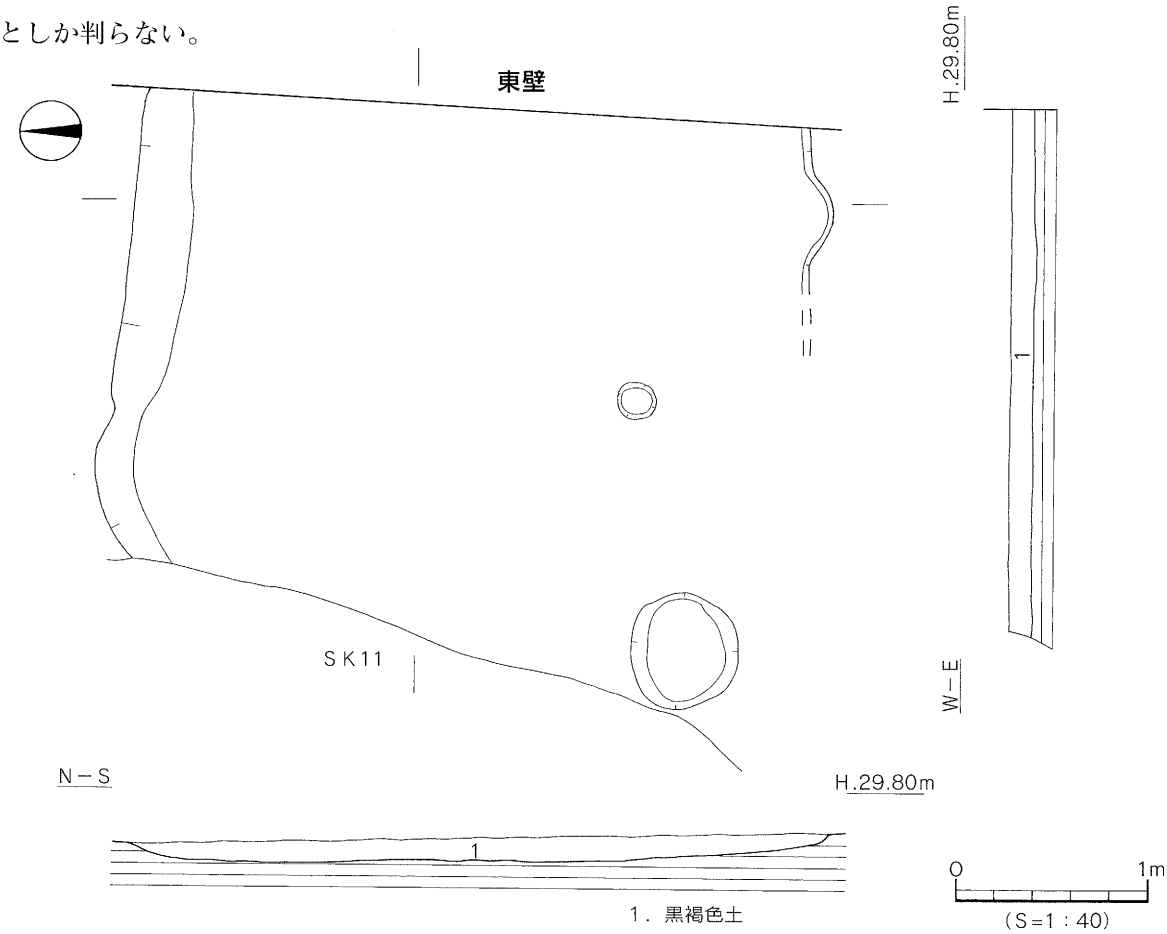


第14図　ＳＫ６測量図・出土遺物実測図

ＳＫ８（第15図）

調査区南側のＦ・５区に位置し、ＳＫ11に切られる。平面形態は隅丸方形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西2.80ｍ以上、南北3.62ｍ、深さ12cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器･須恵器の小片が僅かに出土する。

時期：出土した遺物が小片であり、埋土から古墳時代としか判らない。



第15図　ＳＫ８測量図

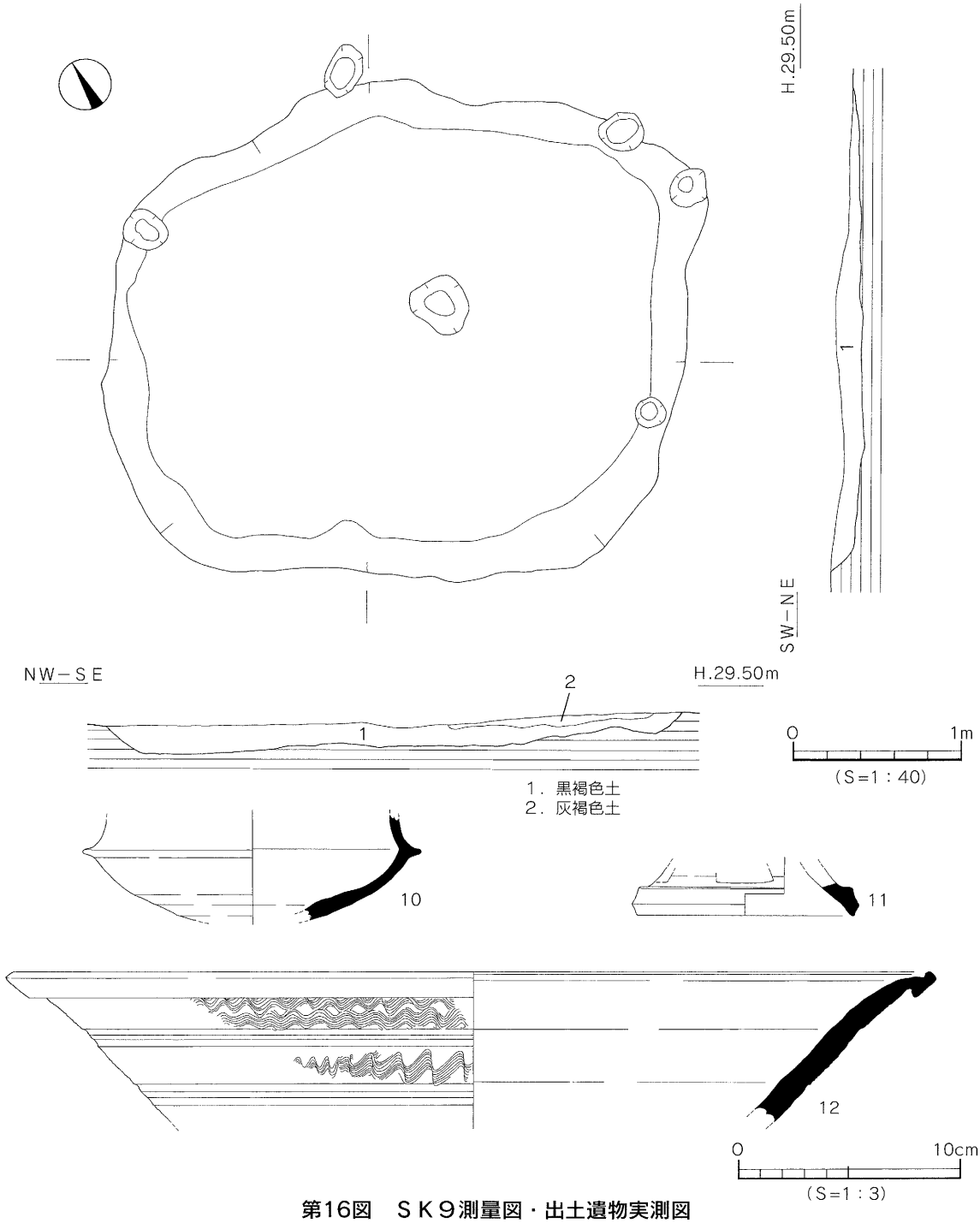
ＳＫ９（第16図）

調査区中央部のＣ～Ｄ・４～５区に位置し、ＳＸ２の床面にて検出する。平面形態は隅丸方形、断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西3.5m、南北3.0m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器・須恵器片が出土する。

出土遺物（第16図、図版12）

10は坏身である。外方にのびる受部に、立ち上がりは内傾する。11は高坏の脚裾部で、台形状に肥厚される。12は甕である。口縁部外面に２条の凹線とその上に波状文が２段施される。

時期：出土した遺物の特徴から６世紀中頃とする。



第16図　ＳＫ９測量図・出土遺物実測図

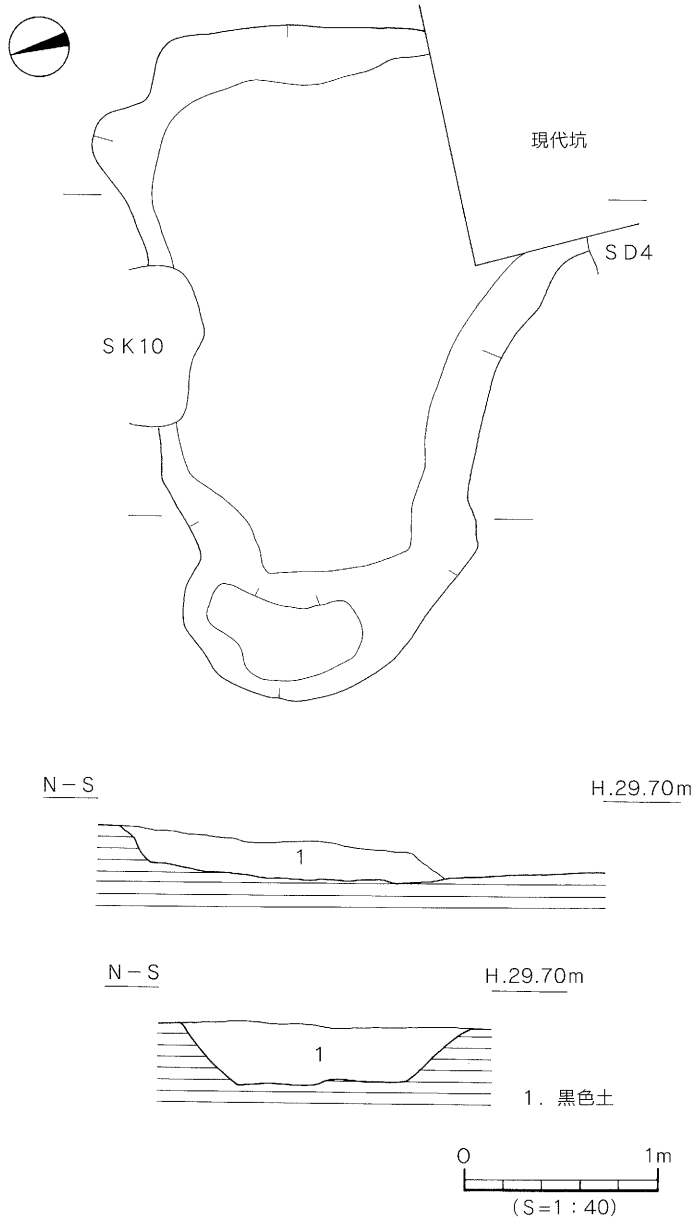
ＳＫ12（第17図）

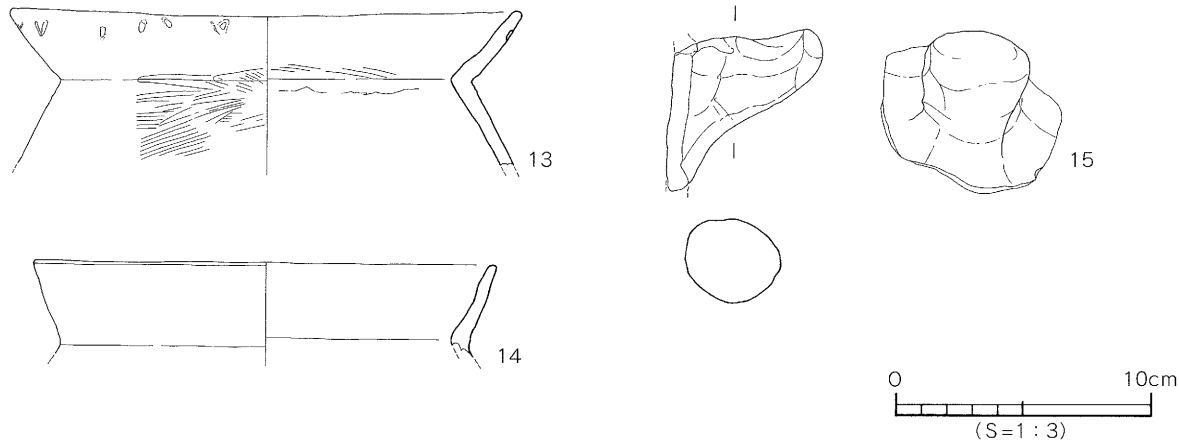
調査区南側のＥ～Ｆ・４～５区に位置し、ＳＫ10・現代坑に切られ全容は不明であるが、平面形態は不整楕円形を呈するものと推測する。断面形態は逆台形状を呈し、基底面は緩やかに凹む。規模は東西3.56ｍ、南北1.64ｍ以上、深さ34cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土師器の甑、須恵器の坏蓋・坏身片が出土する。

出土遺物（第17・18図、図版12）

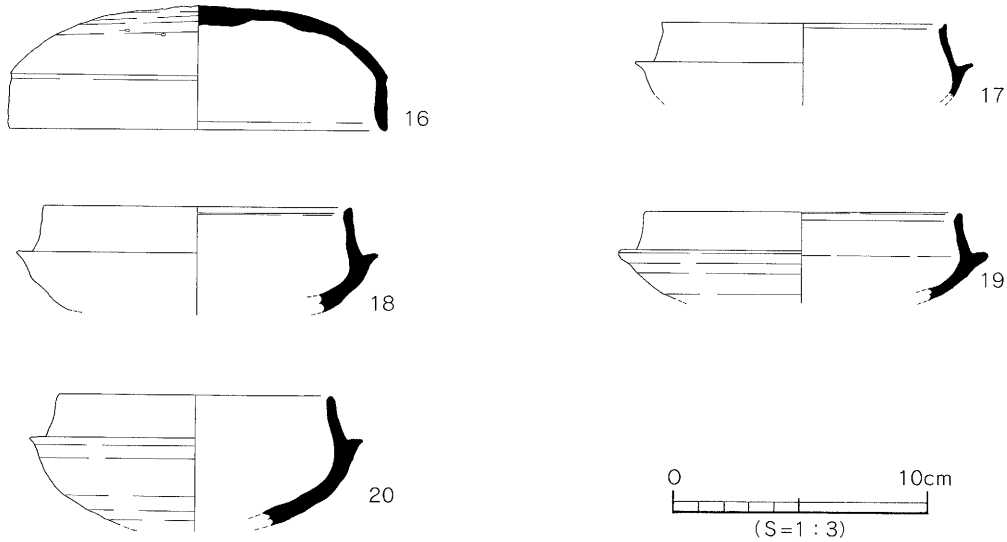
13・14は甕である。13は「く」字状の口縁部の外面上部に不揃いな刺突文が施される。14は外傾する口縁部の端部は丸くおさまる。15は甑の把手で、外方向にのびる。16は坏蓋である。やや丸みをもつ天井部と境に稜をもち、口縁部は垂下する。17～20は坏身である。17は受部は外上方にのび、口縁端部に段を有する。18は口縁端部内面に沈線が巡る。19は口縁端部は内傾する面をなす。20は内面の底部にヘラ記号状の線がみられる。

時期：出土した遺物の特徴から６世紀前半とする。





第17図　ＳＫ12測量図・出土遺物実測図(1)



第18図　ＳＫ12出土遺物実測図(2)

２）溝

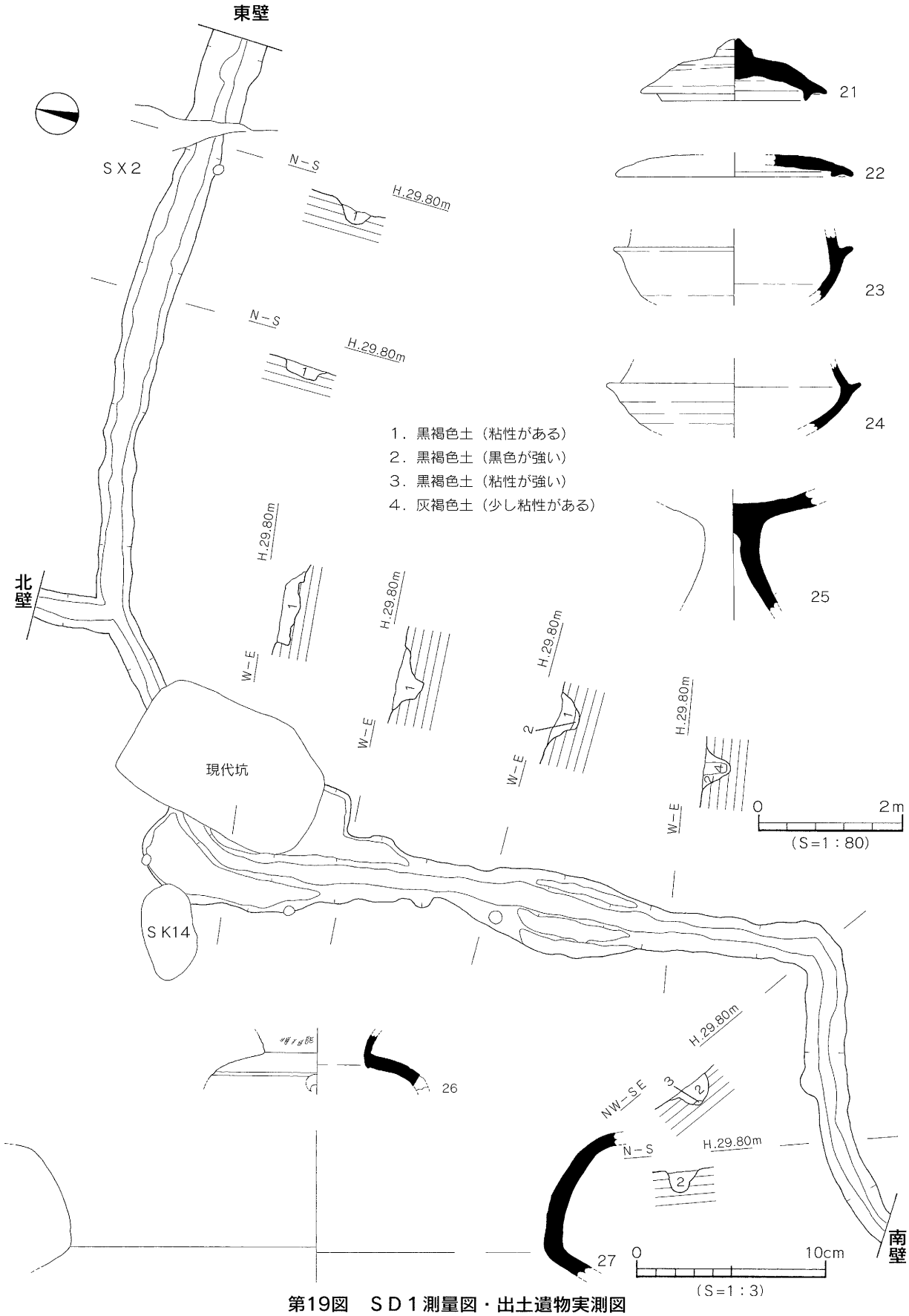
ＳＤ１（第19図）

調査区中央部東壁のＣ・６区から東西方向に直線的に延び、Ｃ・４区にて屈曲すると同時に、北方向に分岐する。さらにＤ・３区～Ｅ・４区間は南北方向に直線的に延び、Ｅ・４区で東西方向に屈曲し、湾曲しながら調査区外に延びる。Ｄ・３～４区とＥ・３～４区の２ヶ所では溝の内側に中段の張り出しをもつ。断面形態は逆台形状を呈する。規模は検出長22.4m、上場幅0.37～1.65m、深さ７～42cmを測る。溝床は北東から南西に21.7cmの比高差を測る。埋土は黒褐色土の単一層の堆積である。遺物は基底面より浮いた状態で、土師器の高坏、須恵器の坏蓋・坏身・甕・瑞が出土する。

出土遺物（第19図、図版12）

21・22は坏蓋である。21は天井部につまみを有し、口縁部内側のかえりが接地する。22は低く平らな天井部に、口縁部端内側のかえりが接地する。23・24は坏身である。23は外上方にのびる受部は凹む。24は外上方にのびる受部は緩やかに凹み、立ち上がりは内傾する。25は高坏で、外傾して下がる脚部。26は瑞である。上胴部に円孔がみられ、肩部に凹線が１条巡る。27は甕の口縁部である。緩やかに外反する頸部に大きく外反する口縁部をもつ。

時期：出土した遺物の特徴から７世紀前半とする。



第19図　ＳＤ１測量図・出土遺物実測図

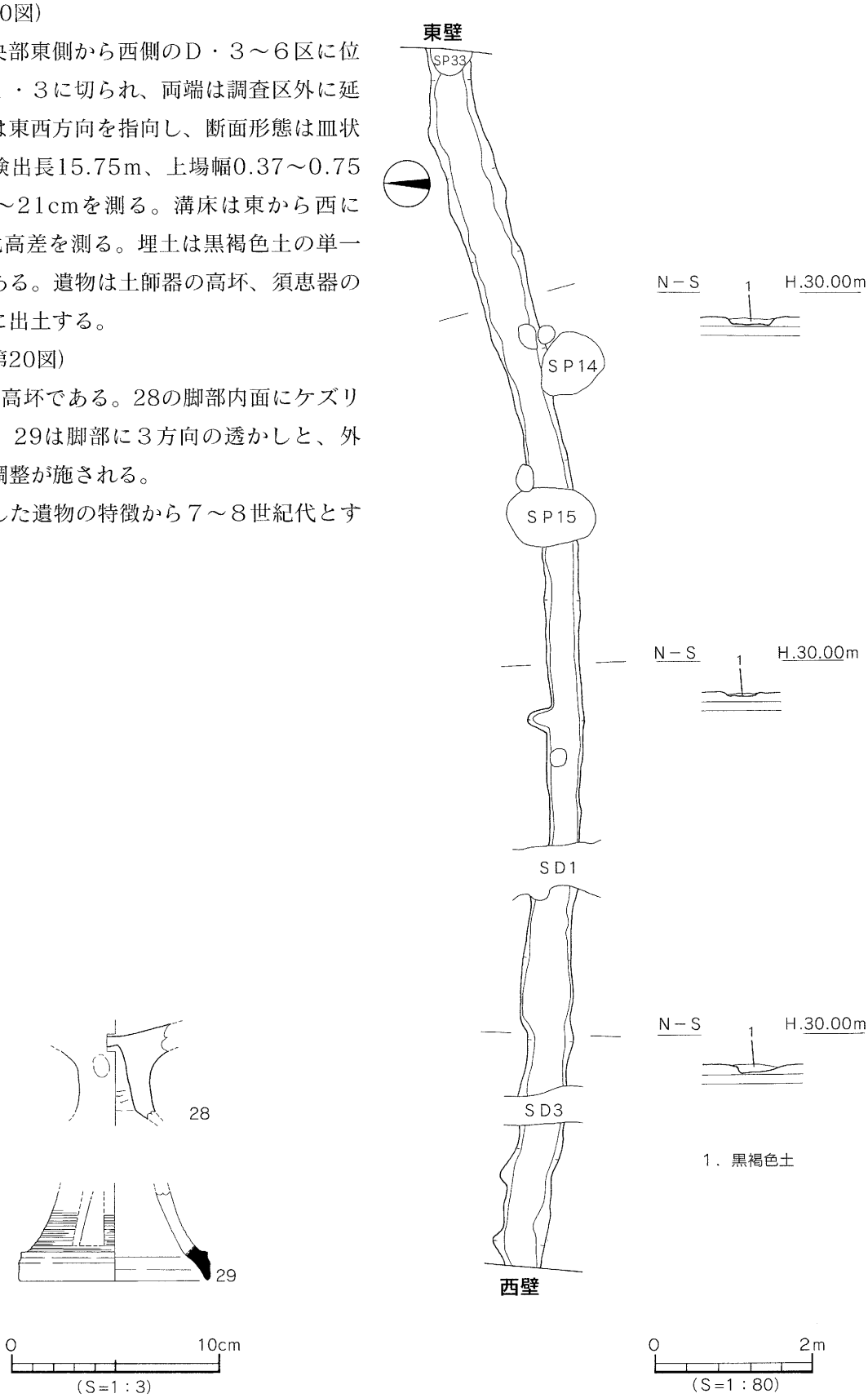
ＳＤ２（第20図）

調査区中央部東側から西側のＤ・３～６区に位置し、ＳＤ１・３に切られ、両端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。検出長15.75m、上場幅0.37～0.75m、深さ２～21cmを測る。溝床は東から西に16.8cmの比高差を測る。埋土は黒褐色土の単一層の堆積である。遺物は土師器の高坏、須恵器の高坏が僅かに出土する。

出土遺物（第20図）

28・29は高坏である。28の脚部内面にケズリがみられる。29は脚部に３方向の透かしと、外面にカキ目調整が施される。

時期：出土した遺物の特徴から７～８世紀代とする。

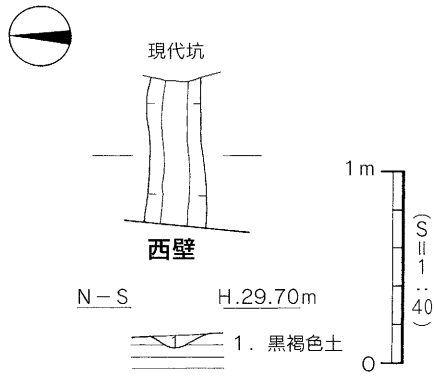


第20図　ＳＤ２測量図・出土遺物実測図

ＳＤ４（第21図）

調査区南側のＦ・４区に位置し、東側は現代坑に切られ、西側は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。検出長0.76m、上場幅0.26～0.32m、深さ４～７cmを測る。埋土は黒褐色土の単一層の堆積である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。



第21図　ＳＤ４測量図

（２）古代

１）土坑

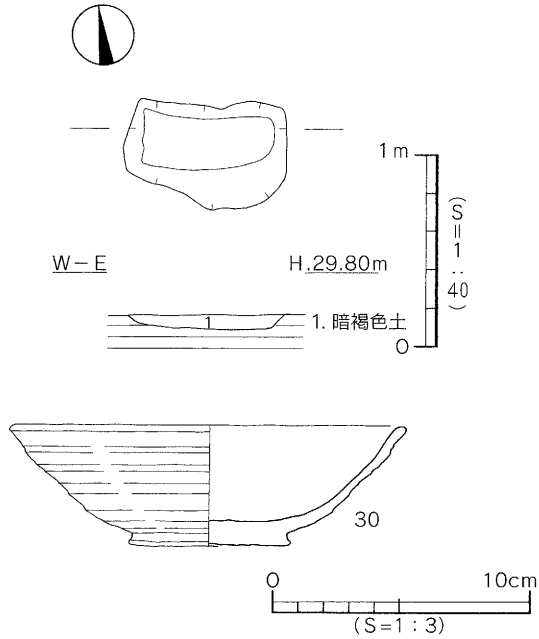
ＳＫ10（第22図）

調査区南側のＥ・４区に位置し、ＳＫ12を切る。平面形態は隅丸方形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦で、規模は東西0.85m、南北0.48m、深さ15cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

出土遺物（第22図、図版12）

30は坏である。円盤高台の底部に回転糸切り痕がみられる。

時期：出土した遺物の特徴から古代末とする。



第22図　ＳＫ10測量図・出土遺物実測図

（３）中世

１）土坑

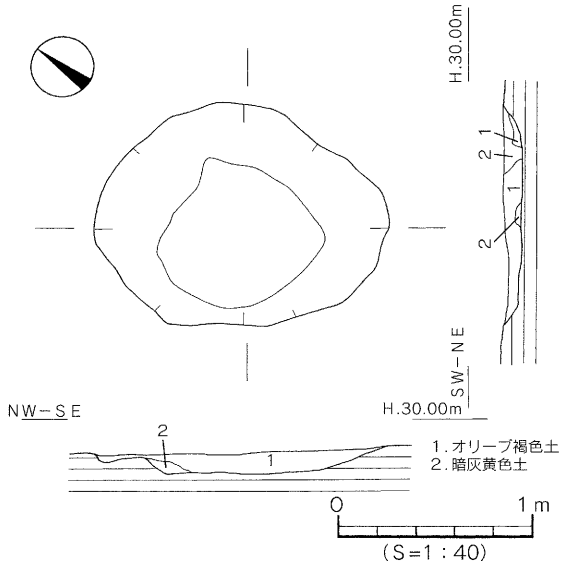
ＳＫ１（第23図）

調査区北側のＢ・５区に位置し、ＳＫ２・５を切る。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.15m、南北1.53m、深さ11cmを測る。埋土はオリーブ褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

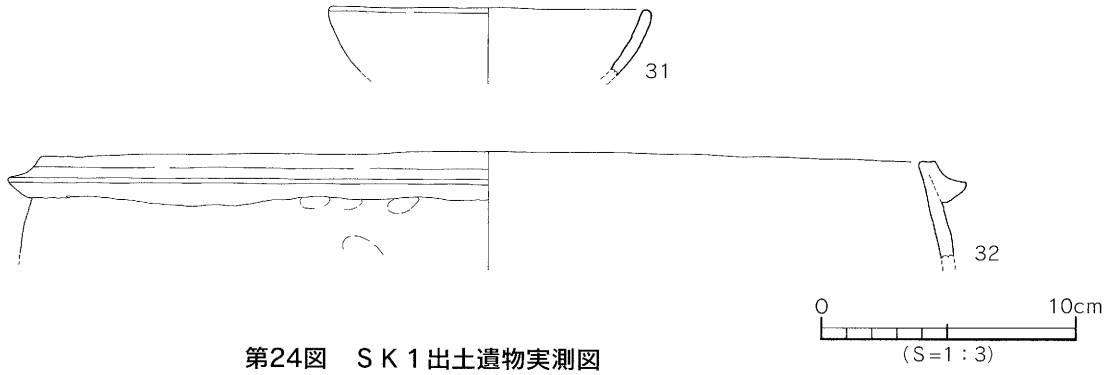
出土遺物（第24図、図版12）

31は坏である。内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。32は土釜の口縁部である。内湾する口縁部に下膨れの断面三角形状の貼付凸帯が巡る。

時期：出土した遺物の特徴から７～8世紀とする。



第23図　ＳＫ１測量図

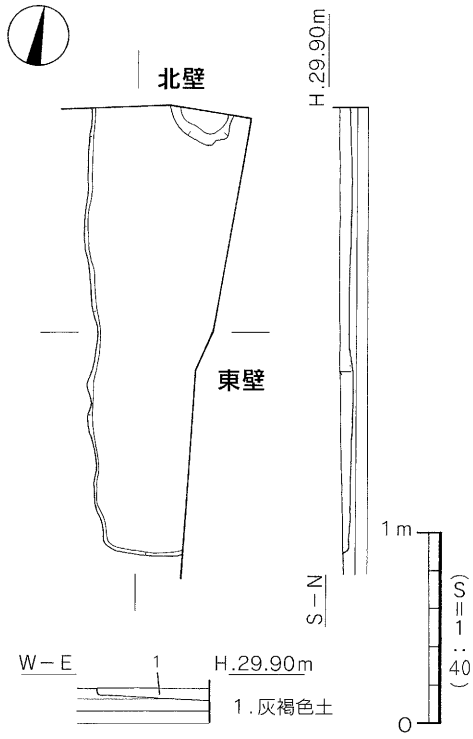


第24図　ＳＫ１出土遺物実測図

ＳＫ４（第25図）

調査区北側のＡ・６区に位置し、東・北側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は方形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西0.8m以上、南北2.34m以上、深さ８cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から中世としか判らない。

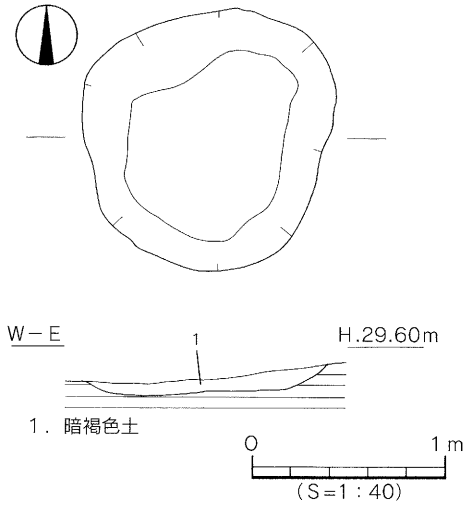


第25図　ＳＫ４測量図

ＳＫ７（第26図）

調査区北側のＣ・５区に位置し、ＳＸ２の床面にて検出する。平面形態は楕円形、断面形態はレンズ状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.36m、南北1.43m、深さ10cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：出土した遺物が小片であり、中世としか判らない。



第26図　ＳＫ７測量図

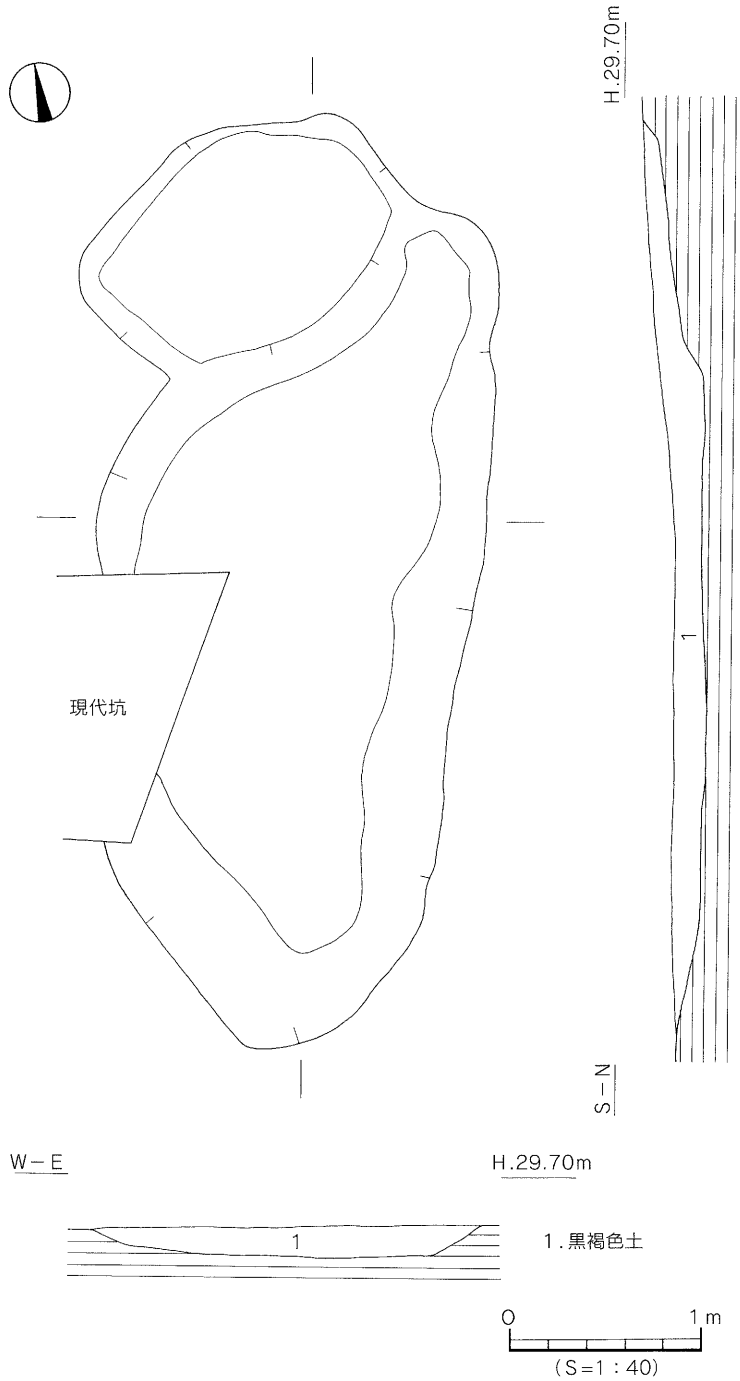
ＳＫ11（第27図）

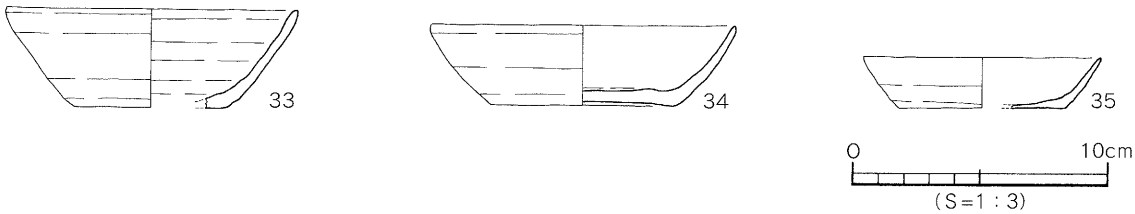
調査区南側のＥ～Ｆ・５区に位置し、現代坑に切られる。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.95ｍ以上、南北4.88ｍ、深さ22cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の坏身・釜、須恵器のこね鉢片が出土する。

出土遺物（第27・28図、図版13）

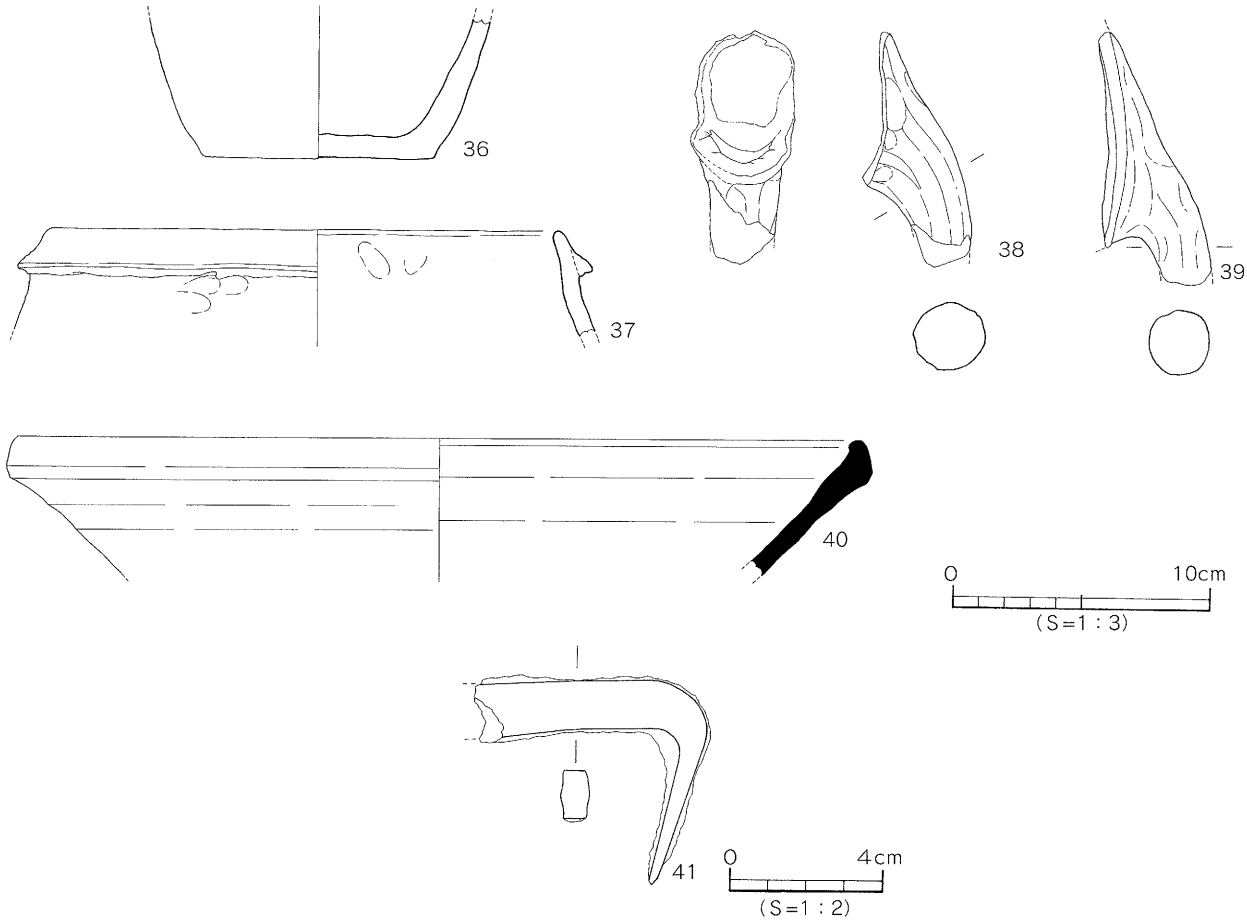
33・34は坏である。ともに平底の底部から外傾して立ち上がる。34は底部に回転糸切り痕が残る。35は皿である。平底に回転糸切り痕が残る。36は鉢の底部である。平底の底部に回転糸切り痕が残る。37～39は土釜である。37は内傾する口縁部に断面三角形状の貼付凸帯が巡る。38・39は断面形状が円形の脚部である。40はこね鉢で、外傾する口縁部の端部は上方にややのびる。東播系。41は鋤である。先端部が「レ」字形に屈曲しており、断面長方形の茎部は欠失している。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀とする。





第27図　ＳＫ11測量図・出土遺物実測図(1)



第28図　ＳＫ11出土遺物実測図(2)

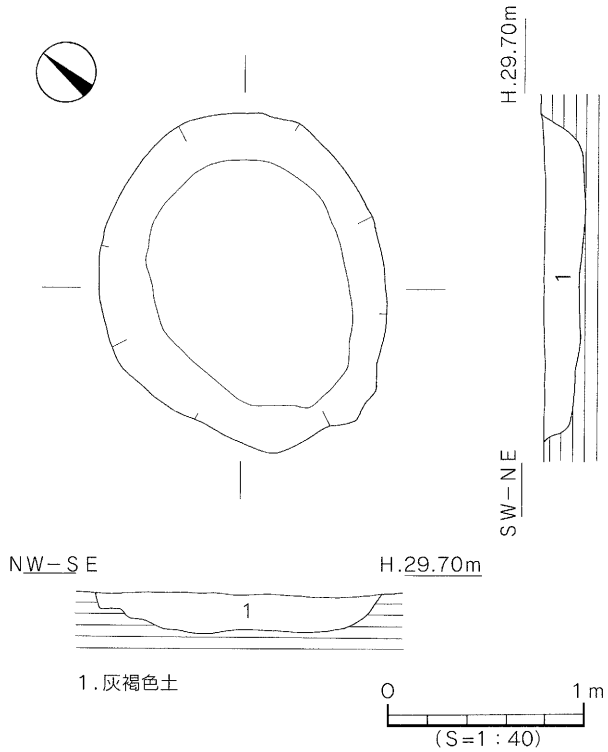
ＳＫ13（第29図）

調査区中央部のＥ・４区に位置し、柱穴を切る。平面形態は楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、基底面は平坦である。規模は長軸1.77m、短軸1.50m、深さ21cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器の坏・皿が出土する。

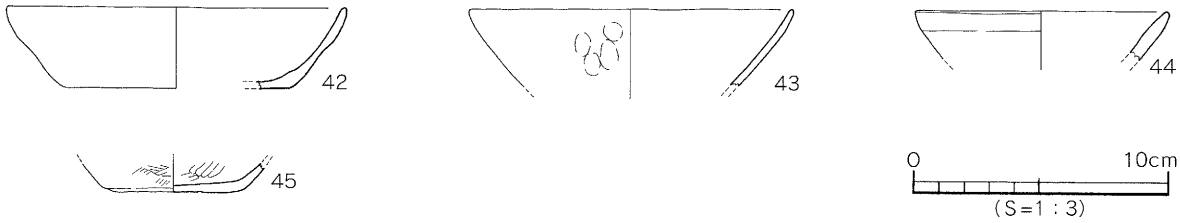
出土遺物（第30図）

42～45は坏である。42は平底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。43は口縁端部がやや内湾する。44は口縁端部が尖り気味である。45は平底の底部内面にミガキ調整が施される。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀とする。



第29図　ＳＫ13測量図

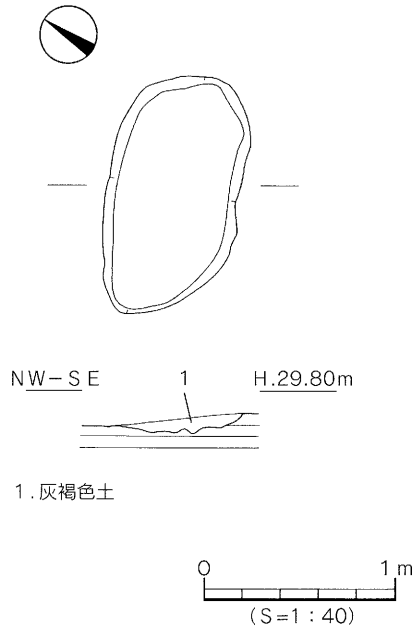


第30図　ＳＫ13出土遺物実測図

ＳＫ14（第31図）

調査区西側のＤ・３区に位置し、ＳＤ１を切る。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は長軸1.32m、短軸0.7m、深さ７cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物はない。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。



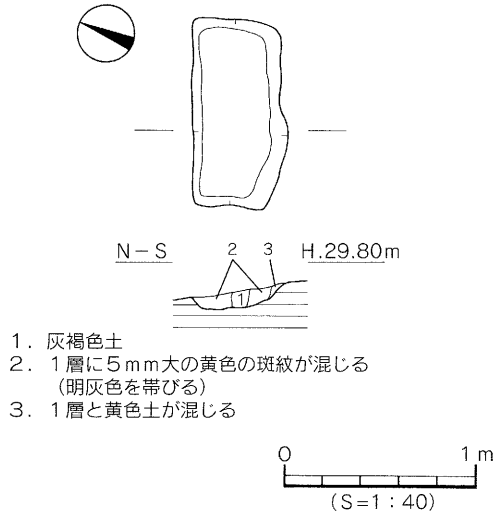
第31図　ＳＫ14測量図

ＳＫ15（第32図）

調査区東側のＤ・５区に位置し、ＳＸ２を切る。平面形態は長方形、断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は長軸1.9m、短軸0.98m、深さ20cmを測る。埋土は灰褐色土である。

遺物はない。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。



第32図　ＳＫ15測量図

ＳＤ３（第33図）

調査区西側のＣ～Ｅ・３区に位置し、ＳＤ２を切る。主軸は南北方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。検出長7.48m、上場幅0.26～0.53m、深さ１～13cmを測る。溝床は北から南に7.2cmの比高差を測る。埋土は灰褐色土の単一層の堆積である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。

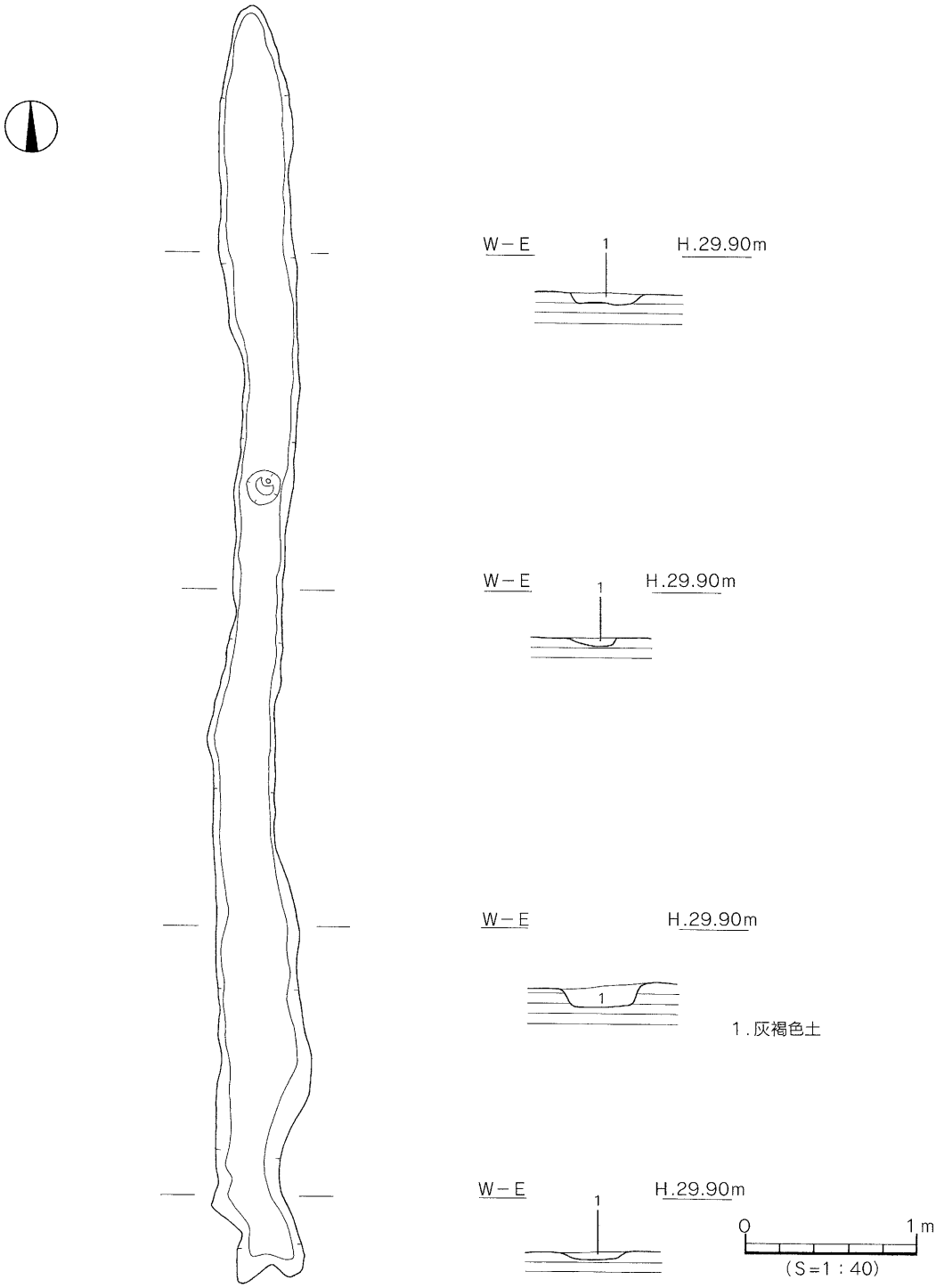


図33図　ＳＤ３測量図

3）性格不明遺構

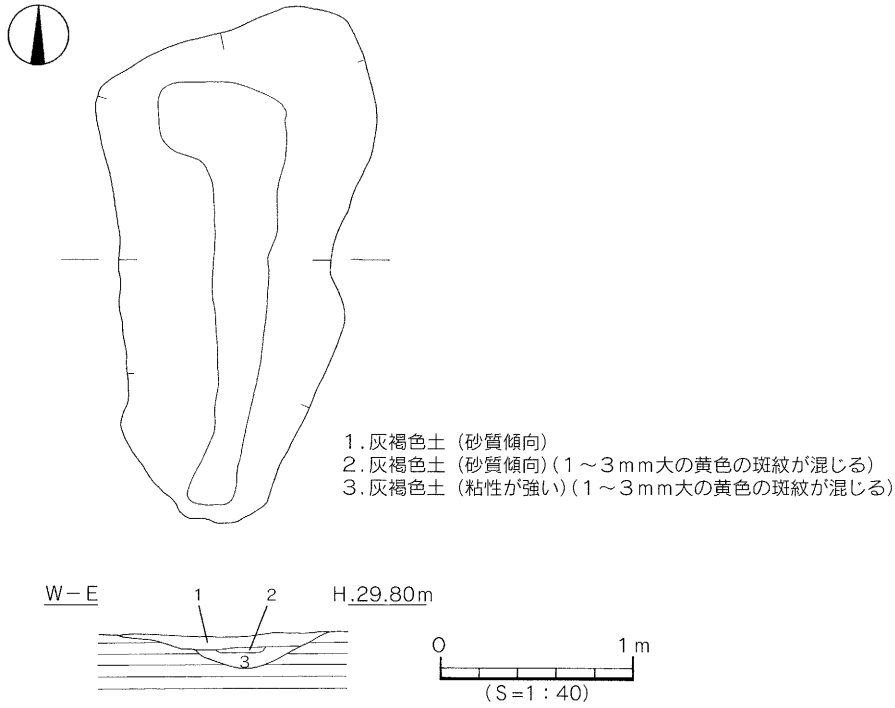
ＳＸ１（第34図）

調査区中央部Ｅ・5区に位置する。平面形態は不整形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長軸2.74ｍ、短軸1.43ｍ、深さ18cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は須恵器片に混じり、土師器の坏・皿・釜、瓦質の釜が出土する。

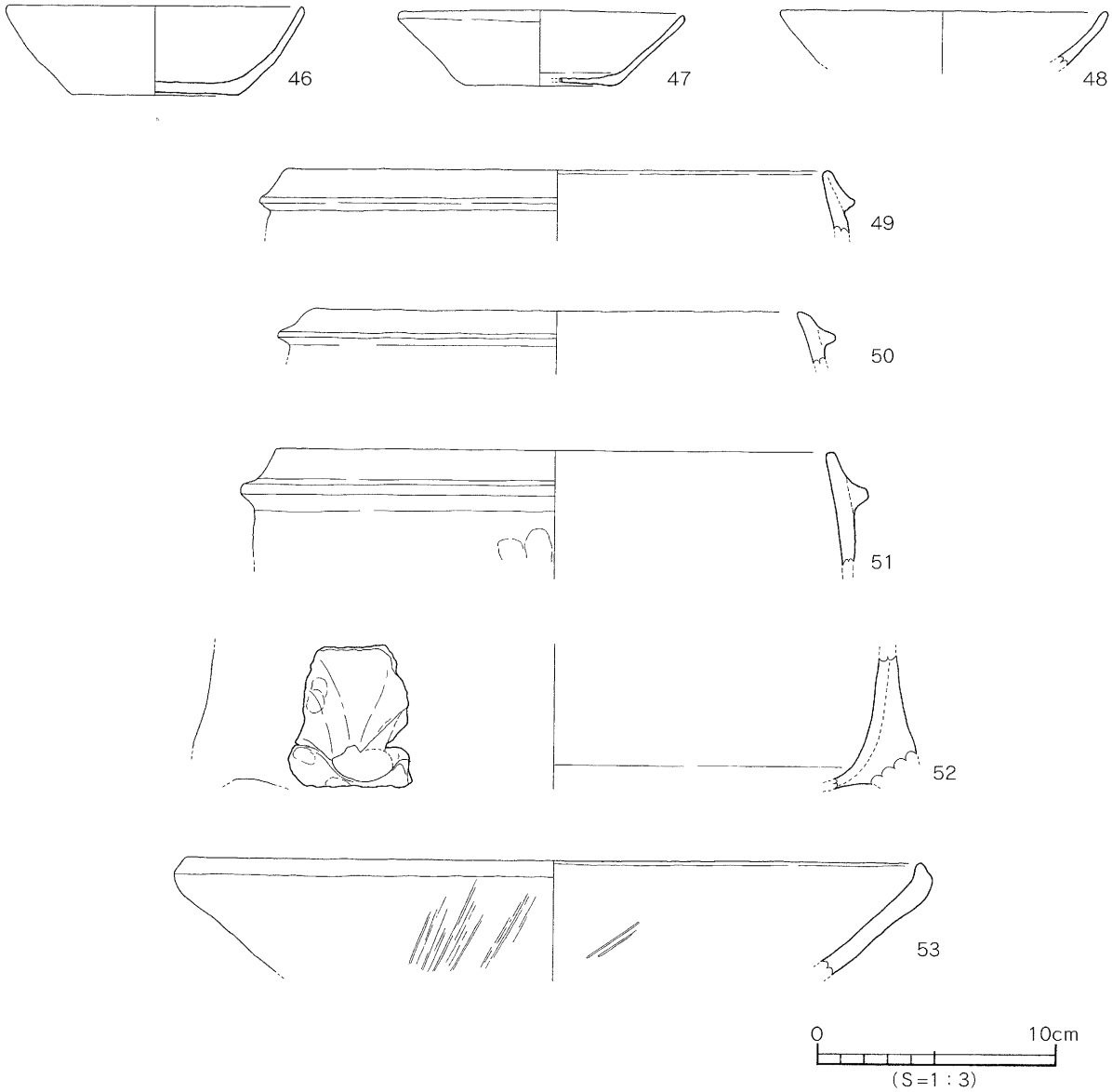
出土遺物（第35図、図版13）

46～48は坏である。46は底部に回転糸切り後の板圧痕が残る。47は平底の底部から外傾して立ち上がる。48は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。49～52は土釜である。49は口縁部に断面下膨れの三角形状の凸帯が巡る。50は口縁部に断面台形状の貼付凸帯が巡る。51は口縁端部よりやや下方に断面台形状の貼付凸帯が巡り、口縁端部は平らな面をなす。52は底部端に脚が貼り付く。53は鉢である。外反する口縁部の端部は上方にややのびる。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀代とする。



第34図　ＳＸ1測量図



第35図　ＳＸ1出土遺物実測図

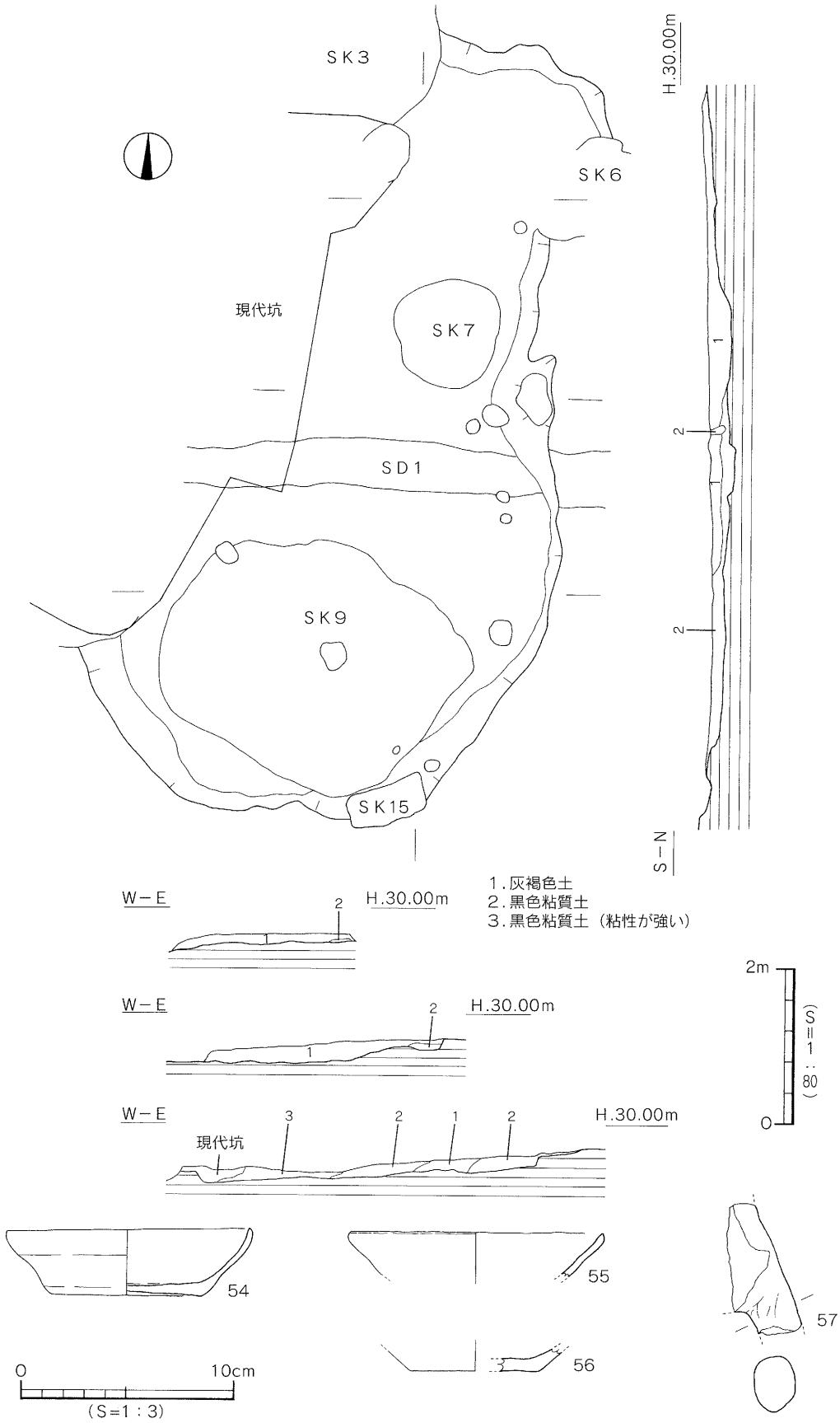
ＳＸ２（第36図）

調査区北側のＢ～Ｄ・４～６区に位置する。ＳＤ１を切り、ＳＫ３・６・15・現代坑に切られ全容は不明であるが、平面形態は不整楕円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈する。規模は長軸10.42ｍ、短軸4.5ｍ、深さ30cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は基底面より浮いた状態で須恵器片に混じり土師器の坏・皿・釜が出土する。

出土遺物（第36図、図版13）

54～56は坏である。平底の底部は回転糸切り後の板圧痕が残る。55は外反する口縁部をもつ。56は平底の底部より外傾して立ち上がる。57は土釜の脚部で、断面形が楕円形の脚部である。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀代とする。



第36図　ＳＸ２測量図・出土遺物実測図

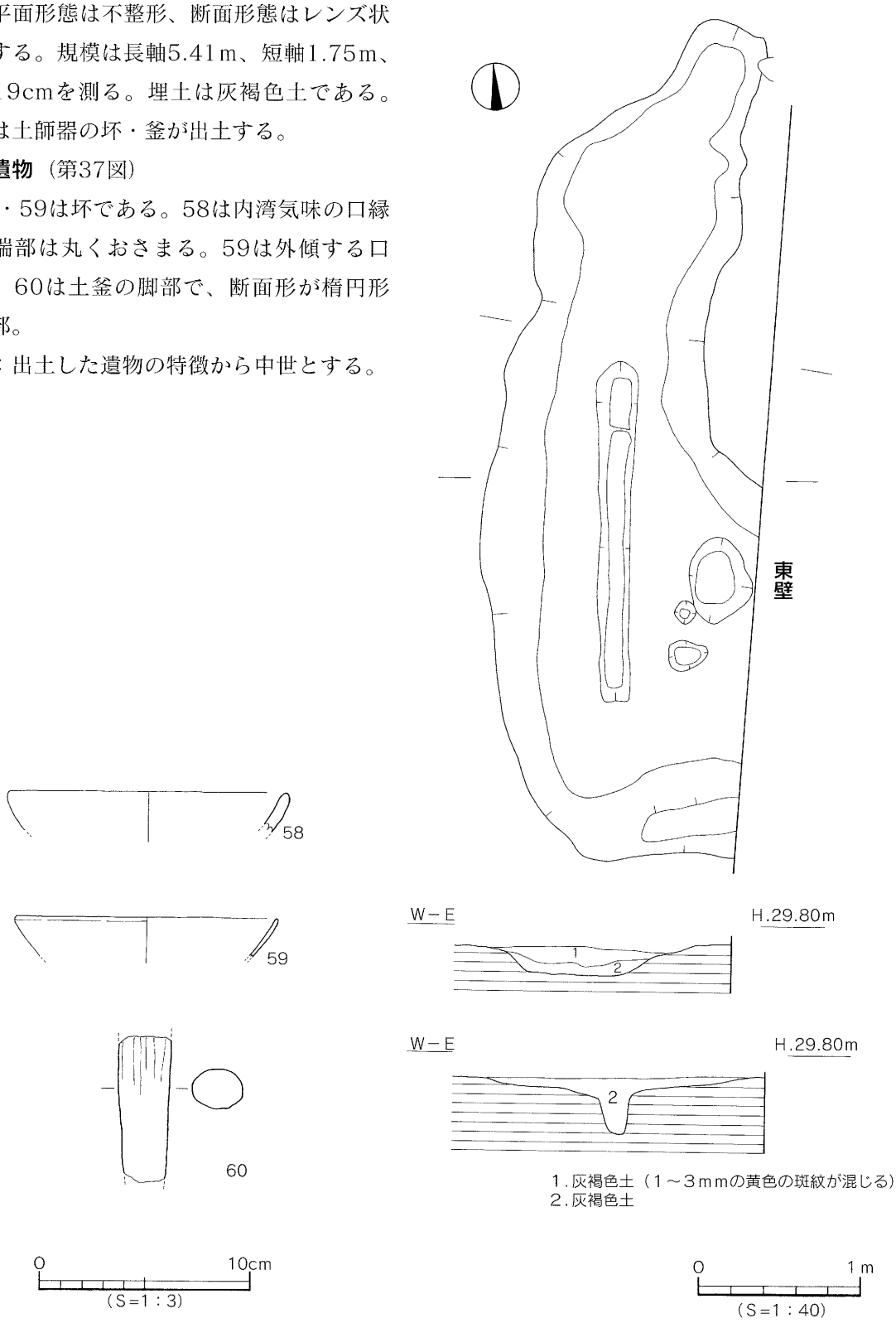
ＳＸ３（第37図）

調査区南東部Ｄ～Ｆ・５～６区に位置する。平面形態は不整形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長軸5.41ｍ、短軸1.75ｍ、深さ19cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器の坏・釜が出土する。

出土遺物（第37図）

58・59は坏である。58は内湾気味の口縁部に端部は丸くおさまる。59は外傾する口縁部。60は土釜の脚部で、断面形が楕円形の脚部。

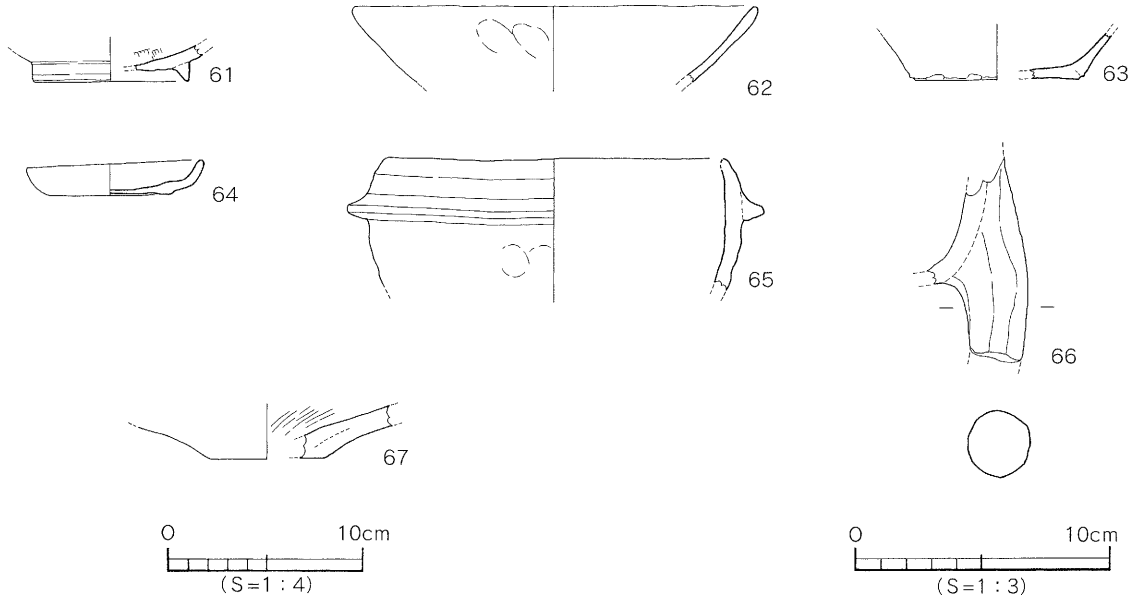
時期：出土した遺物の特徴から中世とする。



第37図　ＳＸ３測量図・出土遺物実測図

柱穴出土遺物（第38図、図版13・14）

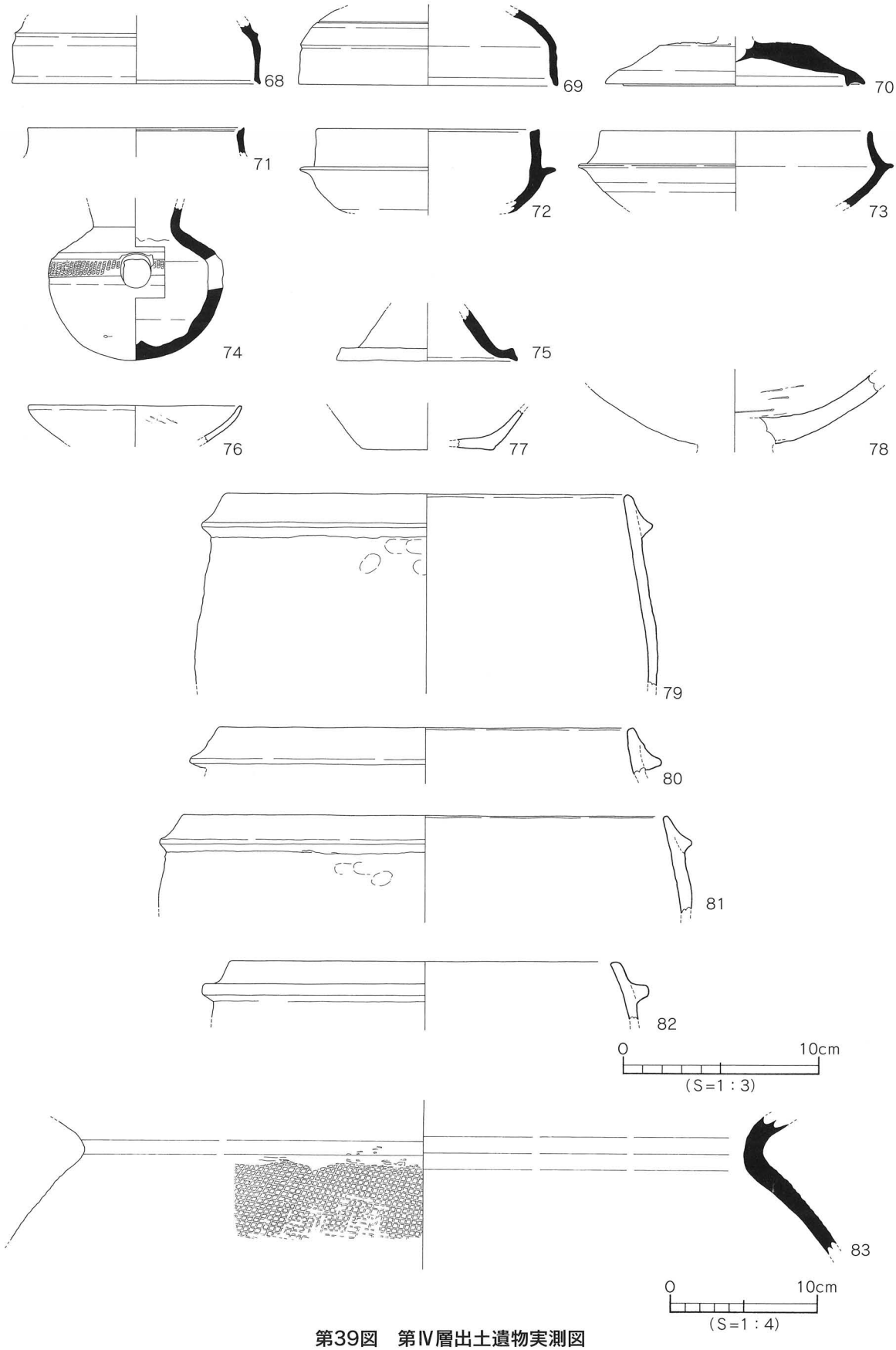
61・62は椀である。61は底部に断面三角形状の貼付高台をもつ。62は口縁端部は丸くおさまる。63は坏で、平底の底部より外傾して立ち上がる。64は皿である。平底の底部より内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。65・66は土釜である。65は内湾して立ち上がり、口縁端部よりやや下方に断面台形状の貼付凸帯が巡る。66は底部端に断面円形の脚が貼り付く。67は壺の底部で、平底の底部より大きく外反して立ち上がる。内面にハケ、外面にナデがある。



第38図　柱穴出土遺物実測図

第Ⅳ層出土遺物（第39図、図版14）

68～70は蓋坏である。68は天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁端部に内傾する面をなす。69は坏蓋である。天井部と口縁部の境に稜をもつ。70は天井部は平らで、口縁端部よりやや下方にのびるかえりをもつ。71～73は坏身である。71は口縁端部に段を有する。73は水平に受部を持つ。74は甕である。上胴部に円孔と波状文、その下に凹線が施される。75は高坏の脚部である。大きく外反する脚裾端部は下方に肥厚される。76・77は坏である。76は口縁端部付近がやや内湾する。77は底部に回転糸切り後の板圧痕が残る。78は高坏である。79～82は土釜である。79～81は口縁部に断面下膨れの三角形状の貼付凸帯が巡る。82は口縁端部より下方に断面台形状の貼付凸帯が巡り、口縁端部は平らな面をなす。83は甕である。内湾する胴部内面にナデ、外面にタタキが施される。亀山焼。



第39図　第Ⅳ層出土遺物実測図

４区の調査

第Ⅴ層上面にて溝２条、柱穴１基を検出した。

1）溝

ＳＤ５（第40図）

調査区北側のＢ・11区に位置し、東西端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。規模は検出長0.78m、上場幅2.04～2.25m、深さ９～15cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は須恵器の坏身・高坏・壺が出土する。

出土遺物（第40図）

84は壺の口縁部である。外傾する口縁部の端部付近は肥厚される。85は坏身である。やや外上方にのびる受部はやや凹む。86は高坏の脚部である。大きく外反する脚裾部の端部は下方にのびる。

時期：出土した遺物の特徴から７～８世紀代とする。

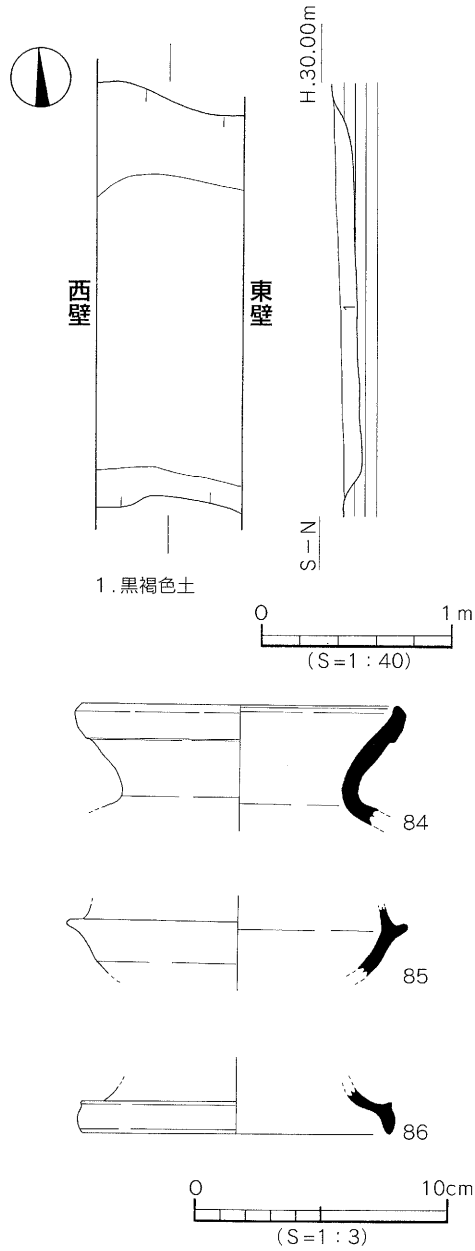
ＳＤ６（第41図）

調査区南側のＤ・11区に位置し、東西端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長0.94m、上場幅0.92～0.97m、深さ２～８cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

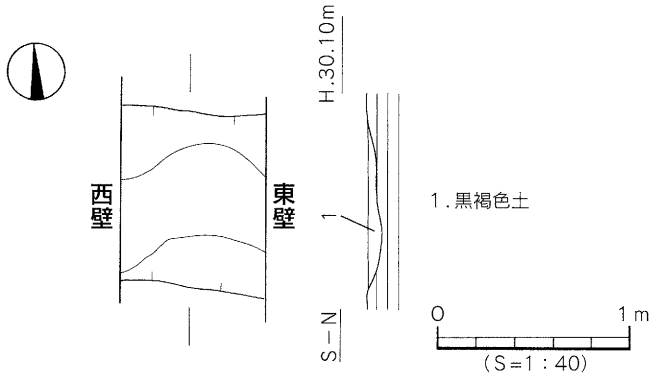
時期：出土した遺物から古墳時代としか判らない。

ＳＰ５出土遺物（第42図、図版14）

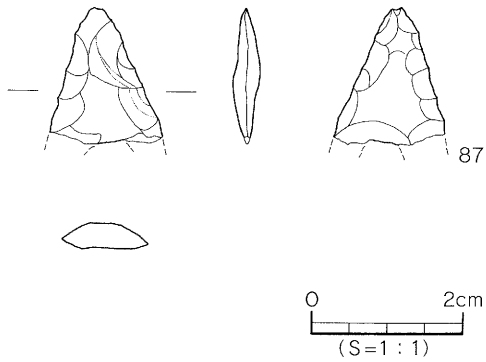
87は凹基式の打製石鏃である。長さ1.8cm、幅1.5cm、厚み0.35cm、重量0.726ｇを測る。サヌカイト製。



第40図　ＳＤ５測量図・出土遺物実測図



第41図　ＳＤ６測量図



第42図　ＳＰ５出土遺物実測図

５区の調査

第Ⅴ層上面にて溝２条、柱穴３基を検出した。

１）溝

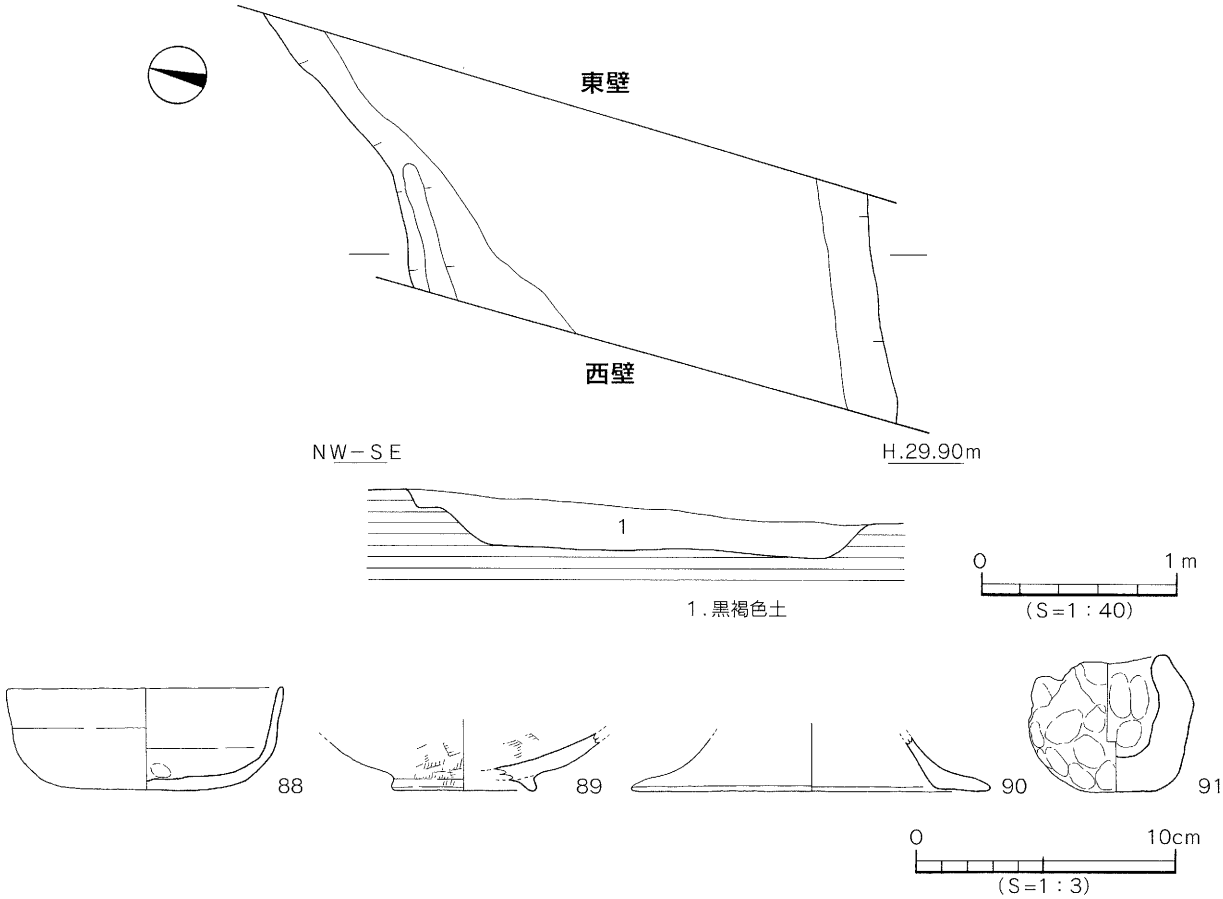
ＳＤ７（第43図）

調査区南側のＢ・９区に位置し、東西は調査区外に延びる。主軸は北東から南西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。規模は検出長1.24m、上場幅2.62～3.29m、深さ15～37cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の坏身・高坏・手捏ね土器、須恵器の高坏・甕・提瓶、鉄器が出土する。

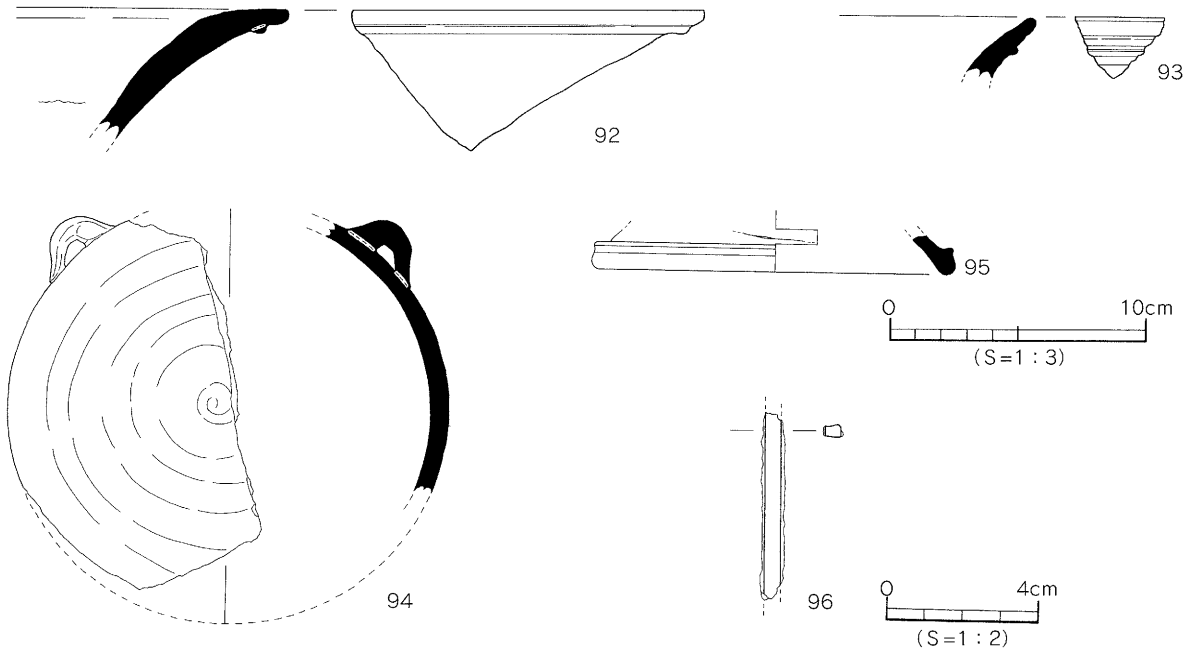
出土遺物（第43・44図、図版14）

88は坏である。平底で底部端に丸みをもち、外傾気味に立ち上がる。89は椀の底部で、断面三角形状の貼付高台がつく。90は高坏の脚部で、裾部は外方にのび端部は丸くおさまる。91は手捏ね土器で断面形が「U」字状を呈し、内外面はナデがある。92・93は甕の口縁部である。92は大きく外反する口縁部の外面に凸帯が１条巡る。93は外反する口縁部の外面に沈線１条と凸帯が１条巡る。94は提瓶である。円形の胴部、肩部に把手がつく。95は高坏の脚部で透かしをもつ脚端部は肥厚される。96は釘で上下部が欠失している。直線的に延びており、その断面は長方形である。長さ50mm、幅５mm、厚み3.5mm、重さ2.76ｇを測る。

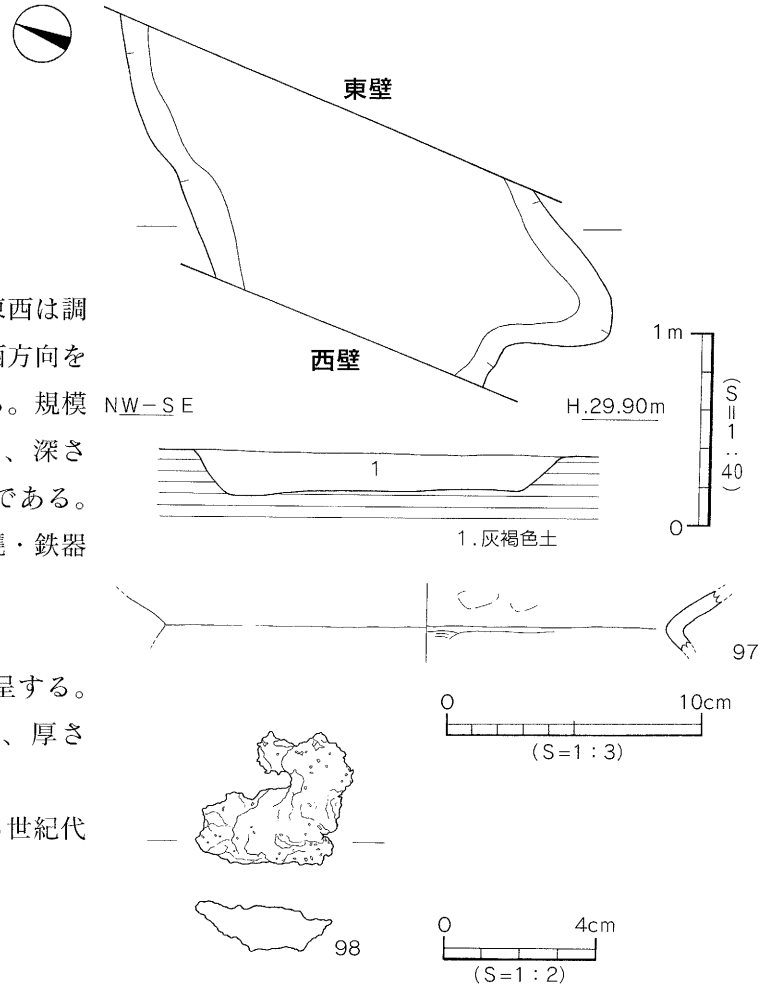
時期：出土した遺物の特徴から７世紀代とする。



第43図　ＳＤ７測量図・出土遺物実測図(1)



第44図　ＳＤ７出土遺物実測図(2)



第45図　ＳＤ８測量図・出土遺物実測図

ＳＤ８（第45図）

調査区南側のＣ・９区に位置し、東西は調査区外に延びる。主軸は北東から南西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長1.2ｍ、上場幅1.5～2.3ｍ、深さ12～23cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は須恵器片に混じり、土師器の甕・鉄器が出土する。

出土遺物（第45図、図版14）

97は甕の口頸部で、「く」字状を呈する。98は鉄滓で長さ4.0cm、幅3.5cm、厚さ1.3cm、重さ16.3ｇを測る。

時期：出土した遺物の特徴から５～６世紀代とする。

第４章 調査のまとめ

今回の調査では、古墳時代から中世における遺物包含層の堆積と、古墳時代から中世にかけての集落関連遺構や遺物を確認することができ、同時代における北久米地区の集落の一部が明らかとなった。

土　　層

北久米遺跡３次調査地は来住台地の微高地上に立地している。現地表面は造成地であり、近現代の農耕に伴う削平や造成時の掘削により包含層や遺構の遺存状況は良くない。遺構検出面である第Ⅴ層は、僅かに北から南へ傾斜がみられる。また、古墳時代から中世における包含層の堆積を検出している。

古墳時代

ＳＫ２・３・５・６・８・９・12、ＳＤ１・４・６・８がある。ＳＫ８やＳＫ９は削平を受けており全容は不明であるが、形状や規模などから小型の竪穴遺構の可能性をもつ。ＳＤ１は屈曲部を伴う溝で、掘り方がしっかりしており、埋土が単一層で砂層の堆積を含んでいないことから、水利に伴うものではなく、集落内の区画に伴う施設と考えられる。

古墳～古代

ＳＫ１・10、ＳＤ２・５がある。ＳＤ２は、ＳＤ１より新しい段階の溝であるが、この溝も埋土から集落内の区画に伴う溝と考えられる。東西方向を指向するＳＤ５と、やや北東方向から南西方向を指向するＳＤ７は、方向や位置関係などから、同一の溝のつながりと考えられ、古墳時代から継続して本調査地周辺に古代集落が存在していたことが窺える。

中　　世

ＳＫ４・７・11・13・14、ＳＤ３がある。ＳＸ２は南北に長い不整形の掘り込みであるが、現段階ではどの様な性格をもつ施設か不明である。

ＳＸ３は平面形態がＬ字形の様相を示しており、その基底面に直線的に延びる細くて深い溝を伴っている。この溝は仕切り等の施設とも考えられる。南西に位置する北久米遺跡２次調査地では13～15世紀の区画溝を伴う集落関連遺構が見つかっており、中世集落が調査地周辺に展開されていることが判る。

今後の整理では、福音小学校構内遺跡と北久米浄蓮寺遺跡の両集落との中間地点に存在する本遺跡の役割を解明する必要がある。

〔文献〕

橋本雄一1984「北久米浄蓮寺遺跡－３次調査地－」『松山市埋蔵文化財調査報告書42』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一・武正良浩1995「福音小学校構内遺跡－弥生時代編－」『松山市埋蔵文化財調査報告書50』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一編1996「福音寺地区の遺跡」『松山市埋蔵文化財調査報告書52』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

河野史知編1998「福音寺地区の遺跡Ⅱ」『松山市埋蔵文化財調査報告書67』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

加島次郎1999「乃万の裏遺跡－２次調査地－」『松山市埋蔵文化財調査報告書72』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

遺構・遺物　－凡例－

（1）以下の表は遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2）遺物観察表の各記載について。

法 量 欄（　）：復元推定値

形態・施文欄：土器の各部位名称を略記。

例）底→底部

胎土・焼成欄：胎土欄では混和剤を略記した。

例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母、チャ→チャート

（）内数値は混和剤粒子の大きさを示す。(単位：mm)

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表１　溝一覧

溝(SD)	地　区	断面形	規　模(m) 長さ×幅×深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備　考
1	C～F・3～6	逆台形状	22.40+α×0.37～1.65×0.07～0.42	北東～南西	黒褐色土	土師器 須恵器	7C前半	現代坑に切られる。SK14・SX2・SD2に切られる。調査区外に延びる。
2	D・3～6	皿状	15.75+α×0.37～0.75×0.02～0.21	東～西	黒褐色土	土師器 須恵器	7～8C	SD1・3に切られる。調査区外に延びる。
3	C～E・3	皿状	7.48×0.26～0.53×0.01～0.13	南～北	灰褐色土	土師器	中世	SD2を切る。
4	F・4	レンズ状	0.76+α×0.26～0.32×0.04～0.07	東～西	黒褐色土	土師器	古墳	現代坑に切られる。SK12を切る。調査区外に延びる。
5	B・11	皿状	0.78+α×2.04～2.25×0.09～0.15	東～西	黒褐色土	須恵器	7～8C	調査区外に延びる。
6	D・11	レンズ状	0.94+α×0.92～0.97×0.02～0.08	東～西	黒褐色土	土師器 須恵器	古墳	調査区外に延びる。
7	B・9	皿状	1.24+α×2.62～3.29×0.15～0.37	北東～南西	黒褐色土	土師器 須恵器 鉄器	7C	調査区外に延びる。
8	C・9	レンズ状	1.20+α×1.50～2.33×0.12～0.23	北東～南西	灰褐色土	土師器 須恵器 鉄器	5～6C	調査区外に延びる。

表２　土坑一覧　(1)

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規　模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋 土	出土遺物	時 期	備　考
1	B・5	楕円形	皿状	1.53×1.15×0.11	5.47	オリーブ褐色土	土師器 須恵器	7～8C	SK2・5を切る。
2	A～B・5～6	不整楕円形	皿状	3.68×2.90+α×0.13	9.48+α	黒色土	土師器 須恵器	6C初頭	SK1・5に切られる。調査区外に延びる。
3	B・4～5	楕円形	皿状	3.72+α×1.92+α×0.12	6.34+α	黒色土	土師器 須恵器	6C中頃	SK5・現代坑に切られる。SX2を切る。調査区外に延びる。
4	A・6	方形	皿状	2.34+α×0.80+α×0.08	1.46+α	灰褐色土	土師器	中世	調査区外に延びる。
5	B・5	楕円形	皿状	1.05×0.79×0.07	0.64+α	黒褐色土	土師器	古墳	SK1に切られる。SK2・3を切る。
6	B～C・5～6	楕円形	レンズ状	1.45×1.05+α×0.16	1.17+α	黒色土	須恵器	6C前半	SX2に切られる。
7	C・5	楕円形	レンズ状	1.43×1.36×0.1	1.43	暗褐色土	土師器	中世	SX2の基底面より検出。

土坑一覧

(2)

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
8	F・5	隅丸方形	皿状	3.62×2.80+α×0.12	6.26+α	黒褐色土	土師器 須恵器	古墳	SK11に切られる。 調査区外に延びる。
9	C～D・4～5	隅丸方形	皿状	3.50×3.0×0.17	9.40	黒褐色土	土師器 須恵器	6C中頃	SX2の基底面より検出。
10	E・4	隅丸方形	皿状	0.85×0.48×0.15	0.51	暗褐色土	土師器 須恵器	古代末	SK12を切る。
11	E～F・5	不整楕円形	皿状	4.88×1.95+α×0.22	8.97+α	黒褐色土	土師器 須恵器	13～14C	現代坑に切られる。 SK8を切る。
12	E～F・4～5	不整楕円形	逆台形状	3.56×1.64+α×0.34	5.79+α	黒色土	土師器 須恵器	6C前半	SK10・SD4・現代坑に切られる。
13	E・4	楕円形	逆台形状	1.77×1.50×0.21	2.08	灰褐色土	土師器	13～14C	
14	D・3	楕円形	皿状	1.32+α×0.70×0.07	0.74+α	灰褐色土	ナシ	中世	SD1を切る。
15	D・5	長方形	皿状	1.90×0.98×0.20	0.45+α	灰褐色土	ナシ	中世	SX2を切る。

表3　性格不明遺構一覧

性格不明遺構(SX)	地区	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	E・5	不整形	レンズ状	2.74+α×1.43×0.18	3.88+α	灰褐色土	土師器 須恵器 瓦質	13～14C	
2	B～D・4～6	不整楕円形	皿状	10.42×4.50+α×0.30	11.16+α	灰褐色土	土師器 須恵器	13～14C	現代坑に切られる。 SK3・6・15に切られる。 SD1を切る。
3	D～F・5～6	不整形	レンズ状	5.41×1.75+α×0.19	8.49+α	灰褐色土	土師器	中世	調査区外に延びる。

表4　2区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	甑	残高　3.3	上胴部に凹線が1条巡る。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰白色	密 ◎		

表5　3区SK2 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
2	甕	口径　(19.0) 残高　4.4	「く」字状の口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ◎		
3	甕	口径　(25.1) 残高　3.2	外反する口縁部に端面は平らな面をなす。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ マメツ	橙色・明褐色 橙色	石・長(1) ○	黒斑	
4	坏蓋	残高　3.1	丸みをもつ天井部と、口縁部の境に稜をもち、口縁部は垂下する。	回転ヘラケズリ ナデ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	石(1～2) ◎		
5	坏身	口径　(11.0) 残高　3.15	受部に凹みをもち、口縁部端に段を有する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ →ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(1) ◎		
6	坏身	残高　2.0	受部がやや凹み、立ち上がりは内傾する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		

表6　3区ＳＫ３ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
7	坏蓋	口径 (13.4) 残高 4.95	天井部と口縁部の境に緩やかな稜をなす。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 石(1～3) △		12
8	坏身	受部径(11.1) 残高 2.3	外上方にのびる受部に、内傾する立ち上がりをもつ。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	細粒 ○		

表7　3区ＳＫ６ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
9	坏蓋	残高 2.7	平らな天井部は、口縁部との境に稜をもち、口縁部は垂下する。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	青灰色 青灰色	石(1～2) 長(1) ◎		

表8　3区ＳＫ９ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
10	坏身	残高 4.9	外方にのびる受部に、立ち上がりは内傾する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石(1) ◎		
11	高坏	底径 (9.7) 残高 2.2	脚裾部は台形状に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	長(1～3) ◎		
12	甕	口径 (41.3) 残高 6.9	外反する口縁部外面に２条の凹線とその上に波状文が２段施される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	12

表9　3区ＳＫ12 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
13	甕	口径 (19.6) 残高 6.1	「く」字状の口縁部の外面上部に不揃いな刺突文が施される。	ヨコナデ ハケ(5~6本/cm)	ヨコナデ ハケ マメツ	橙色 橙色・赤褐色	石・長(1～3) チャ ◎		
14	甕	口径 (17.9) 残高 3.7	外傾する口縁部の端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	灰褐色 茶褐色	石・長(1) ◎	黒斑	
15	甑	残高 6.2	外上方にのびる把手。	ナデ マメツ	ナデ	にぶい赤褐色 赤褐色	石・長(1) ◎		12
16	坏蓋	口径 (14.6) 残高 4.9	やや丸味をもつ天井部と、口縁部の境に稜をもち、口縁部は垂下する。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	細粒 ○		12
17	坏身	口径 (11.0) 残高 2.9	受部は外上方にのび、口縁端部に段を有する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石(1) ◎		
18	坏身	口径 (11.9) 残高 4.15	立ち上がりはやや内傾し、口縁端部内面に沈線が巡る。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
19	坏身	口径 (12.2) 残高 3.45	立ち上がりはやや内傾し、口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(3) ◎		
20	坏身	口径 (10.5) 残高 5.2	水平にのびる受部から、内傾する立ち上がりをもち、端部は丸くおさまる。 内面の底部にヘラ記号状の線刻。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1～2) ◎		

表10　3区ＳＤ１ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
21	坏蓋	口径 7.65 つまみ径 2.1 つまみ高 1.0 器高 3.25	天井部につまみを有し、口縁部内側のかえりが接地する。	ナデ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 黄灰色	密・長(1) ◎	自然釉	12
22	坏蓋	口径 (12.4) 残高 1.15	低く平らな天井部に、口縁端部と内面のかえりが接地する。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	細粒 ○		
23	坏身	残高 3.4	外上方にのびる受部は凹む。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎		
24	坏身	残高 3.6	外上方にのびる受部は緩やかに凹み、立ち上がりは内傾する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
25	高坏	残高 6.3	外傾する脚部。	ナデ マメツ	ナデ マメツ	灰白色 灰白色	石(2) △		
26	甕	残高 2.7	上胴部に円孔がみられ、肩部に凹線が一条巡る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色・暗灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
27	甕	頸径 (25.7) 残高 7.65	緩やかに外反する頸部に、大きく外反する口縁部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰オリーブ色	密 ◎		

表11　3区ＳＤ２ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
28	高坏	残高 4.6	脚上部内面にケズリがみられる。	マメツ	マメツ ケズリ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1) 金 ◎		
29	高坏	底径 (9.0) 残高 4.35	脚部に３方向の透かし。	回転ナデ カキ目	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	

表12　3区ＳＫ10 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
30	坏	口径 (14.9) 器高 4.75 底径 6.3	円盤高台の底部に回転糸切り痕がみられる。	回転ナデ	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1) 金 ◎		12

表13　3区ＳＫ１ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
31	坏	口径 (12.2) 残高 2.6	内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	ナデ	ナデ	乳色 乳色	砂 ◎		
32	土釜	口径 (33.6) 残高 4.1	内湾する口縁部に、下膨れの断面形が三角形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	黒色 灰黄褐色	石・長(1～4) ◎		12

表14　3区ＳＫ11 出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
33	坏	口径 (11.2) 器高 3.9 底径 (6.0)	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	細粒 ◎		

3区ＳＫ11 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
34	坏	口径 (11.7) 器高 3.15 底径 7.0	やや上げ底気味の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ㊞回転糸切り	ヨコナデ ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	密 ◎		
35	皿	口径 (9.3) 器高 2.0 底径 (6.5)	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ㊞回転糸切り	ヨコナデ	灰黄褐色 黄灰色	細粒 ○	煤付着	
36	鉢	底径 (8.9) 残高 5.6	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	マメツ ㊞回転糸切り	回転ナデ	暗灰黄色 黄灰色	石(1) ○		
37	土釜	口径 (20.4) 残高 4.2	内傾する口縁部に断面三角形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ →ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1～4) ◎		
38	土釜	残高 8.5	断面形状が円形の脚部である。	ナデ 指頭痕	ナデ	黄灰色 灰色	石・長(1～4) ◎		
39	土釜	残高 10.05	断面形状が円形の脚部である。	ナデ	ナデ	暗灰色 灰色	石(1～5) ○		
40	こね鉢	口径 (32.6) 残高 5.4	外傾する口縁部の端部は上方に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(3) ◎		13

表15　3区ＳＫ11 出土遺物観察表（鉄製品）

番号	器種	残存	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
41	鎹	約1／3	5.45	6.15	0.7	26.902		13

表16　3区ＳＫ13 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
42	坏	口径 (13.0) 器高 3.2 底径 (8.7)	平底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○		
43	坏	口径 (12.4) 残高 3.0	外傾して立ち上がり口縁端部付近がやや内湾する。	ナデ	ナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1) ◎		
44	坏	口径 (9.7) 残高 1.95	外傾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄灰色 淡黄灰色	石・長(1～4) ◎		
45	坏	底径 (5.3) 残高 1.15	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ナデ	ミガキ ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1) 金 ◎		

表17　3区ＳＸ１ 出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
46	坏	口径 (12.1) 器高 3.8 底径 6.9	平底の底部は回転糸切り後の板圧痕が残り、内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ ㊞回転糸切り	マメツ	灰白色 灰白色	石(1～3) 長(1) ○		
47	坏	口径 (11.7) 器高 3.2 底径 6.2	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ナデ ㊞回転糸切り	ヨコナデ ナデ	浅黄色 浅黄色	細粒 ◎		
48	坏	口径 (13.6) 残高 2.25	内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石(1) ○		

3区ＳＸ１ 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
49	土釜	口径 (22.4) 残高 2.65	口縁部に下膨れの貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ ナデ	ナデ マメツ	灰黄色 灰黄色	石・長(1～4) ◎		
50	土釜	口径 (20.0) 残高 2.2	口縁部に断面形が台形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ ナデ	暗灰色 暗灰色	石(1～4) ○		
51	土釜	口径 (23.2) 残高 4.8	口縁端部より下がった位置に断面形が台形状の貼付凸帯が巡り、口縁端部は平らな面をなす。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	暗灰色 暗灰色	石・長(1～2) ◎		13
52	土釜	残高 6.0	底部端に脚が貼り付く。	ナデ 指オサエ	マメツ ヨコナデ	褐灰色 褐灰色	石・長(1～4) ◎	煤付着	
53	鉢	口径 (30.8) 残高 4.8	外反する口縁部の端部は上方にややのびる。	ヨコナデ ナデ ハケ	ナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1) 金 ◎		13

表18 3区ＳＸ２ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
54	坏	口径 11.35 器高 3.25 底径 7.0	回転糸切り後の板圧痕をもつ底部から外反気味に立ち上がり、口縁部付近は内湾する。	マメツ ㊞回転糸切り	マメツ ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ○		13
55	坏	口径 (11.8) 残高 2.1	外傾する口縁部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 石(3) ○		
56	坏	底径 (6.0) 残高 1.1	平底の底部より外傾して立ち上がる。	回転ナデ ㊞回転糸切り ハケ	回転ナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ○		
57	土釜	残高 6.2	断面形が楕円形の脚部である。	ナデ マメツ	ナデ	暗灰色 灰色	石(1～5) 長(2) ○		

表19 3区ＳＸ３ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
58	坏	口径 (13.0) 残高 1.9	内湾気味の口縁部に端部は丸くおさまる。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい橙色 黄灰色	密 ○		
59	坏	口径 (12.2) 残高 1.9	外傾する口縁部。	ヨコナデ →ナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	細粒 ◎	黒斑	
60	土釜	残高 7.0	断面形が楕円形の脚部。	ナデ マメツ		にぶい橙色 黄灰色	石(1～4) 長(1～3) ○		

表20 3区柱穴出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
61	椀	底径 (6.0) 残高 1.45	底部に断面形が三角形状の貼付高台をもつ。	ナデ マメツ	ナデ ハケ	乳黄白色 乳黄白色	砂 ◎		
62	椀	口径 (15.4) 残高 3.0	外傾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1) ◎		

3区柱穴出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
63	坏	底径 (6.8) 残高 1.8	平底の底部より外傾して立ち上がる。	回転ナデ ㊢回転糸切り	回転ナデ	淡茶褐色 淡灰茶褐色	石・長(1～3) ◎		
64	皿	口径 6.7 器高 1.35 底径 4.7	平底の底部より内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	回転ナデ ㊢回転糸切り	回転ナデ	灰白色 灰白色	石(1) ○		13
65	土釜	口径 (12.8) 残高 5.15	内湾して立ち上がり、口縁端部よりやや下がった位置に断面形が台形状の貼付凸帯が巡る。	ナデ	ナデ	黒色 灰色	石・長(1～5) ◎	煤付着	
66	土釜	残高 7.7	底部端に断面形が円形の脚が貼り付く。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 灰色	石・長(1～6) ◎	煤付着	14
67	壺	底径 (6.0) 残高 2.75	平底の底部より大きく外反して立ち上がる。	ナデ	ハケ(4本/cm)	にぶい黄橙色 黄灰色	石・長(1～3) 金 ◎		

表21　3区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
68	坏蓋	口径 (12.6) 残高 3.15	天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ	マメツ	黒色 灰色	密 ◎	自然釉	
69	坏蓋	口径 (13.2) 残高 3.85	丸味をおびた天井部と、垂直に下がる口縁部の境に稜をもつ。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 石(2.5) ○		
70	坏蓋	口径 (11.4) 残高 2.3	天井部は平らで、口縁端部よりやや下方にのびるかえりをもつ。	回転ヘラケズリ	回転ナデ	オリーブ灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
71	坏身	口径 (11.0) 残高 1.3	内傾する口縁部の端部は段を有する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
72	坏身	口径 (11.3) 残高 4.25	受部は水平方向にのび、やや凹む。立ち上がりは垂直で口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石(1) ○		
73	坏身	口径 (13.7) 残高 3.9	水平方向にのびる受部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ◎		
74	甕	頸径 4.4 残高 7.85	上胴部に円孔と波状文、その上下に凹線が施される。	回転ナデ ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
75	高坏	底径 (9.2) 残高 2.6	大きく外反する脚裾部は下方に肥厚される。	ナデ マメツ ヨコナデ	マメツ ナデ	浅黄色 浅黄色	細粒 ◎		
76	坏	口径 (10.8) 残高 1.9	外傾する口縁部の端部付近はやや内湾する。	ヨコナデ →ナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	密 ◎		
77	坏	底径 (6.8) 残高 2.1	平底の底部は回転糸切り後の板圧痕が残る。	マメツ ㊢回転糸切り	ナデ	淡黄色 灰色	密 ◎		
78	高坏	残高 3.55	坏底部外面に脚部との接合痕が残る。	マメツ ナデ	ナデ ヨコナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1～2) ◎		
79	土釜	口径 (20.4) 残高 9.8	内傾して立ち上がり、口縁部に断面形が下膨れの三角形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ ナデ 指オサエ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1～2) ◎	煤付着	
80	土釜	口径 (21.0) 残高 2.4	内傾する口縁部に断面形が下膨れの三角形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1～3) ◎	煤付着	

3区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
81	土釜	口径 (24.6) 残高 5.0	内傾する口縁部に、断面形が三角形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ ナデ 指オサエ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1～2) ◎	煤付着	
82	土釜	口径 (19.1) 残高 3.0	内傾する口縁部に、端部よりやや下方に断面台形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ	ナデ	灰色 灰色	石(1～2) 長(1) ○		
83	甕	残高 9.3	内湾する胴部に、外反する頸部をもつ。	ナデ タタキ	ナデ	灰色 青灰色	石・長(1～2) ◎		14

表22　4区ＳＤ５ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
84	壺	口径 (12.5) 残高 4.7	外傾する口縁部の端部付近は肥厚される。	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	白褐色 白褐色	石・長(1) ○		
85	坏身	残高 2.7	やや外上方にのびる受部は、やや凹む。	マメツ	マメツ	乳褐色 乳褐色	密 △		
86	高坏	底径 (12.0) 残高 1.85	大きく外反する脚裾部の端部は下方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表23　4区ＳＰ５ 出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
87	石鏃	ほぼ完存	サヌカイト	1.8	1.5	0.35	0.726		14

表24　5区ＳＤ７ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
88	坏	口径 (10.6) 器高 4.0 底径 (7.8)	平底で底部端は丸みをもち、外傾気味に立ち上がる。	マメツ	回転ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1～2) ◎		
89	椀	底径 (5.4) 残高 2.25	底部に断面形が丸みをおびた三角形状の貼付高台がつく。	ナデ ハケ	ナデ ハケ	乳灰黄色 乳黄灰色	砂 ◎	黒斑	
90	高坏	底径 (13.8) 残高 2.1	脚裾部は外方にのび、端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	橙茶色 橙茶色	密 ◎		
91	手捏ね	口径 5.0 器高 5.4 底径 2.9	断面形が「U」字状を呈する。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1～2) 金 ◎		14
92	甕	残高 5.2	大きく外反する口縁部の外面に凸帯が一条巡る。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰黄色	密 ◎	自然釉	
93	甕	残高 2.4	外反する口縁部の外面に沈線１条と凸帯１条が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	暗緑灰色 緑灰色	石・長(1) ◎		
94	堤瓶	残高 14.5	円形の胴部の肩部に把手がつく。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	石(1～2)長(1) 小礫 ◎		14
95	高坏	底径 (13.4) 残高 1.5	内傾して立ち上がる脚部に透かしが施され、端部は肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	明灰色 明灰色	密 ◎		

表25　5区ＳＤ７ 出土遺物観察表（鉄製品）

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
96	釘	上下部欠損	5.0	0.5	0.35	2.76		14

表26　5区ＳＤ８ 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
97	甕	残高　1.6	「く」字状の口頸部。	マメツ	ナデ マメツ	茶色 茶色	石・長(1) 金 ◎		

表27　5区ＳＤ８ 出土遺物観察表　（鉄製品）

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
98	鉄滓	完存	4.0	3.5	1.3	16.31		14

写　真　図　版

写真図版データ

1．遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判で補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67　55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール28～85mm他
フィルム	白　黒　プラスXパン・ネオパンSS・アクロス		
	カラー　エクタクロームEPP・RDPⅢ		

2．遺物は、4×5判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材:

カメラ	トヨビュー45G
レンズ	ジンマーS 240mm F5.6他
ストロボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101
フィルム	白黒　プラスXパン・ネオパンアクロス

3．単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材:

引伸機	ラッキー450MD・90MS
レンズ	エル・ニッコール135mm F5.6A・50mm F2.8N
印画紙	イルフォードマルチグレードⅣ RCペーパー

4．製版	写真図版175線	
印刷	オフセット印刷	
用紙	本文	マットカラー110kg
	写真図版	マットカラー135kg
製本	アジロ綴じ	

【参考】『埋文写真研究』vol.1～13　　『報告書制作ガイド』

［大西朋子］

1.調査前風景（南東より）

2.調査地全景（西より）

1.1区検出状況（東より）

2.1区完堀状況（南より）

1.2区検出状況（北より）

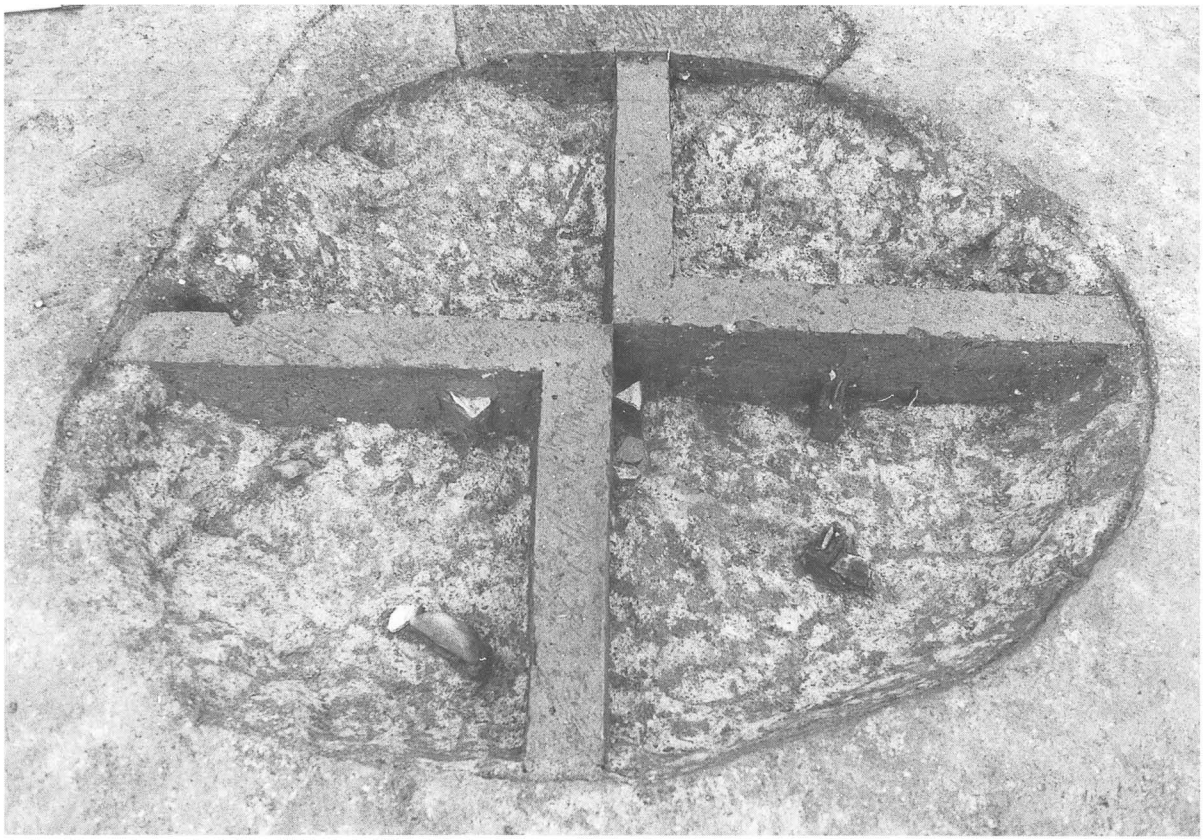
2.2区完堀状況（北より）

1.3区表土掘削状況（北東より）

2.3区調査風景（南東より）

1.3区西壁土層（東より）

2.3区遺構検出状況（南より）



1.3区ＳＫ13ベルト土層・遺物出土状況（南より）

2.3区ＳＤ1・ＳＸ2ベルト土層（西より）

1.3区ＳＤ1遺物出土状況（北より）

2.3区ＳＤ1南西端ベルト土層（北東より）

1.3区遺構完堀状況（北西より）

1.4区遺構検出状況（南より）

2.4区遺構完堀状況（北より）

1.5区遺構検出状況（北東より）

2.5区ＳＤ7遺物出土状況（北より）

1.5区遺構完堀状況（北より）

7

12

15

16

21

32

30

1.3区：ＳＫ3（7）、ＳＫ9（12）、ＳＫ12（15・16）、ＳＤ1（21）、ＳＫ10（30）、ＳＫ1（32）出土遺物

40

51

41

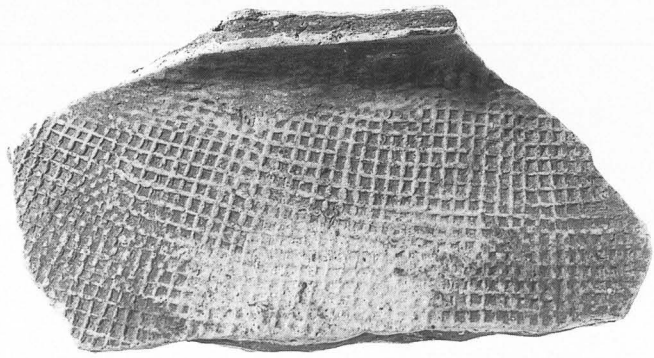
53

64

54

1.3区：ＳＫ11（40・41）、ＳＸ1（51・53）、ＳＸ2（54）、柱穴（64）出土遺物

66



83

1.3区：柱穴（66）、第Ⅳ層（83）出土遺物

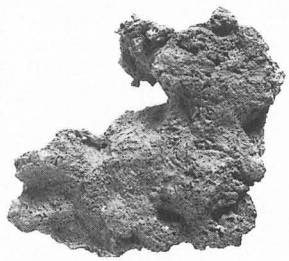
87

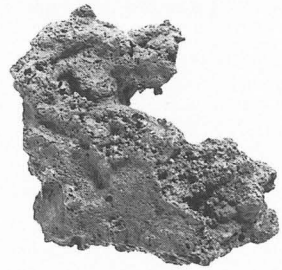
2.4区：ＳＰ5出土遺物

91

94

96





98

3.5区：ＳＤ7（91・94・96）、SD8（98）出土遺物

抄　　録

ふりがな	きたくめいせき
書名	北久米遺跡3次調査地
副書名	
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第98集
編著者名	河野史知・大西朋子
編集機関	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790－0003　松山市三番町6丁目6－1　TEL089－948－6605 埋　文：〒791－8032　松山市南斎院町乙67－6　TEL089－923－6363
発行年月日	西暦2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北久米遺跡 3次調査地	松山市北久米町	38201		33°48′56″	132°47′42″	20031104～ 20031225	2,806m² のうち 443.83m²	給油所及び 店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北久米遺跡 3次調査地	集落	古墳 古代 中世	土坑、溝 土坑、溝 土坑、溝	土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器、陶器	古墳から中世にかけての集落の一部検出

松山市文化財調査報告書　第98集

北　久　米　遺　跡

3次調査地

平成16年3月31日 発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　松山市三番町6丁目6－1
TEL (089) 948－6605

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　松山市南斎院町乙67番6
TEL (089) 923－6363

印刷　平和印刷工業株式会社
〒790-0921　松山市福音寺町728番地
TEL (089) 947－9155